

網使用料算定根拠

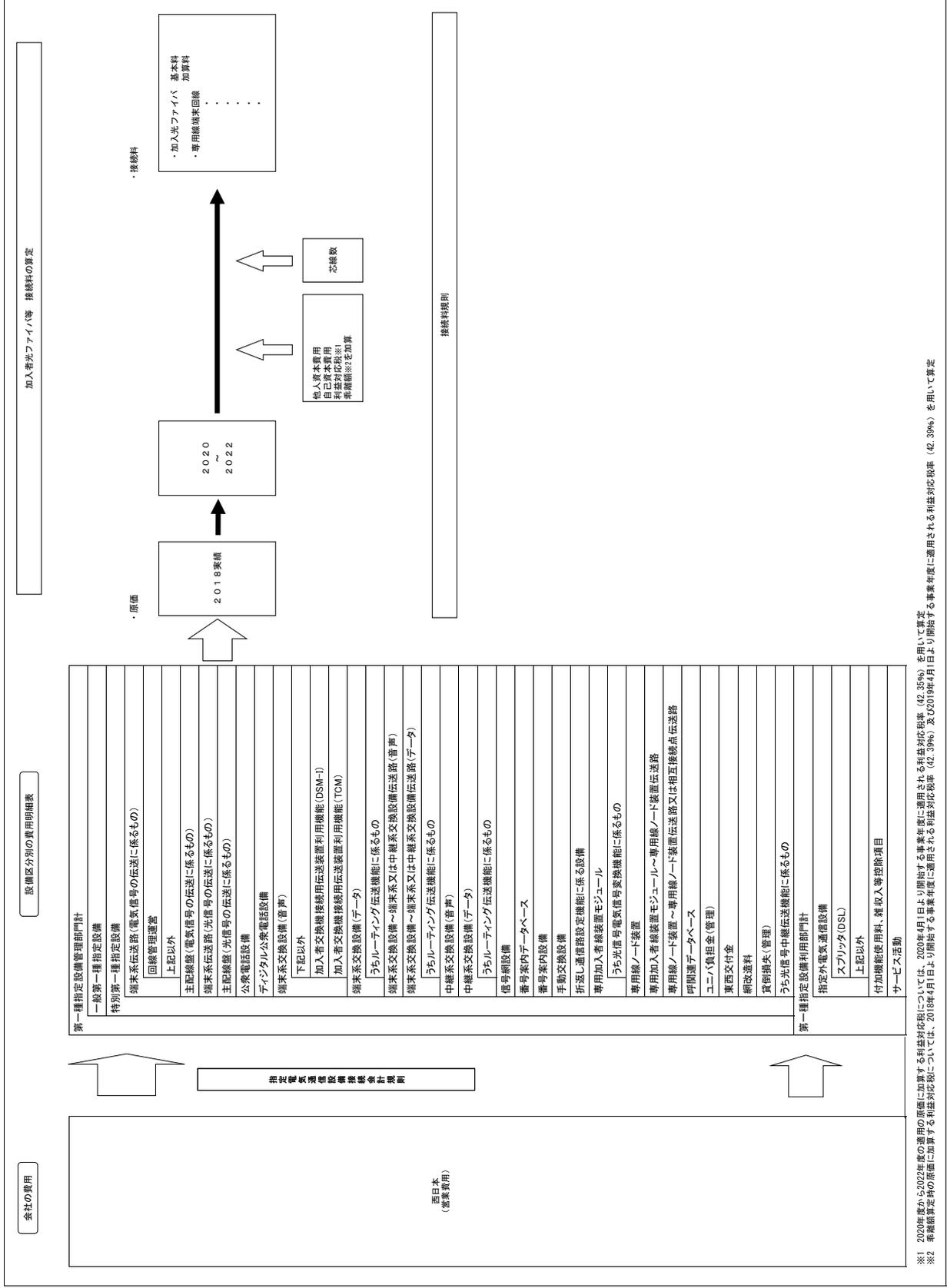
加入光ファイバ

<西日本>

目 次

I. 算定手順	2
II. 原価の算定及び料金の設定	3
1. 端末回線伝送機能	3
III. 投資等比率及び貯蔵品比率の算定	20
IV. 接続料収納までの平均的な日数の算定	21
V. 資本構成比率の算定	22
VI. 他人資本利子率の算定	23
VII. 自己資本利益率の算定	24
VIII. 利益対応税率の算定	25
IX. 料金設定に使用した回線数	27
X. 料金設定に使用した保守換算係数	30
X I. 料金設定に使用した貸倒率	31
(別紙)	
1. 加入者回線・主配線盤の費用明細表	32
2. 加入者回線・主配線盤の固定資産明細表	33
3. メタル設備のみを用いる加入者回線の費用明細表	34
4. メタル設備のみを用いる加入者回線の固定資産明細表	35
(参考)	
1. 設備区別の費用明細表	36
2. 設備区別固定資産明細表	37
3. 設備区別の費用明細表（端末系伝送路の内訳）	39
4. 設備区別固定資産明細表（端末系伝送路の内訳）	40
(別添)	
1. 光信号端末回線伝送機能予測原価総括表（加入者回線）	41
2. 光信号端末回線伝送機能予測原価総括表（主配線盤）	47
3. 光信号主端末回線伝送機能予測原価総括表（加入者回線）	52

I. 算定手順



※1 2020年度から2022年度の適用の原価に算入する利益対応税については、2020年4月1日より開始する事業年度に適用される利益対応税(42.35%)を用いて算定
 ※2 準備金対応の原価に算入する利益対応税については、2018年4月1日より開始する事業年度に適用される利益対応税(42.39%)及び2019年4月1日より開始する事業年度に適用される利益対応税(42.39%)を用いて算定

Ⅱ. 損益の算定及び利益の算定

1. 損益計算書

1-1. 先月号損益計算書及び先月号主損益計算書

ア. 12月分のコスト

- 先月号損益計算書

(1) 損益の算定

区分	指定設備管理部門										指定設備利用部門		備考
	従来系向送線(先月号の伝送に係るもの)				新規線路(先月号の伝送に係るもの)				11月稼働使用料、積込入管稼働料		11月稼働使用料、積込入管稼働料		
	① 右記以外	② 分岐引込線	局外スワッチ	フレッチブル ファイバ 等専有線	① 9月1-2日に係る 営業時間外送 線以外	② 9月1-2日に係る 営業時間外送 線以外	③ 引込線工事料 (分岐引込線 以外)	左記以外	①+②	①+②+③に係る 営業時間外送 線以外			
①指定設備管理運営費	115,335	66,328	46,630	727	1,443	1,804	1,793	212,463	1,646	211,817	68,184	67,643	(参考)1) 設備区分別の費用明細書より
②他人資本費用	1,950	1,911	6	15	18	17	17	45	0	45	1,912	1,911	③①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
③自己資本費用	27,150	26,616	84	204	247	239	239	624	3	621	26,619	26,617	③①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
④利益割当税	11,618	11,388	36	87	106	102	102	267	1	266	11,389	11,388	④①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
合計	156,054	106,423	46,756	1,033	1,814	2,162	2,151	214,209	1,656	212,553	108,104	107,525	①+②+③+④
①法定積立資産	864,905	850,184	0	6,495	7,824	7,578	5,579	0	0	0	850,186	850,186	(参考)2) 設備区分別の費用明細書より
②貯蓄費	1,124	1,105	0	4	10	10	10	0	0	0	1,105	1,105	③①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
③貯蓄品	5,879	5,781	0	44	50	52	52	0	0	0	5,781	5,781	③①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
④固定資産	6,756	3,959	2,714	44	89	88	87	20,180	96	20,085	4,005	3,957	(参考)3) 設備管理運営費(引込線工事料+引込線設備費+引込線定額積立)×45.65日÷365日
⑤引当金	878,264	860,881	2,714	6,591	7,576	7,328	7,328	20,180	96	20,085	861,077	861,059	⑤①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑥有価証券以外の負債の額	132,972	130,339	411	998	1,208	1,170	1,170	3,055	15	3,041	130,371	130,360	⑥①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑦借入金	18,966	11,024	7,789	61	112	118	118	8,231	279	7,956	11,299	11,299	(参考)1) 設備区分別の費用明細書より
⑧減価償却費	41,061	23,529	16,824	310	398	394	394	42,107	581	41,526	24,116	24,116	(参考)1) 設備区分別の費用明細書より
⑨固定資産除価損	1,243	711	602	8	22	11	11	1,682	18	1,664	729	729	(参考)1) 設備区分別の費用明細書より

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

ア. 設備管理費の適用のないサービスにおける加算料増減コストの算定

区分	金額等										備考	
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	①フレキシブルファイバを除いたもの						
①指定設備管理費の額(円) (目標)	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	-
②平均稼働率(%)	17.8	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	17.8	21.9	21.9	21.9	21.9	(参考)1) 設備管理費の平均稼働率(2018年度実績、2019年度以降は予定)
③年間減価償却費(円)	2,888	2,329	2,329	2,329	2,329	2,329	2,888	2,329	2,329	2,329	2,329	③①-②
④他人資本費用(円)	57	57	57	57	57	57	57	57	57	57	57	④①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑤自己資本費用(円)	788	788	788	788	788	788	788	788	788	788	788	⑤①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑥利益割当税(円)	337	337	337	337	337	337	337	337	337	337	337	⑥①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑦加算料(円) (目標-年)	4,080	3,511	3,511	3,511	3,511	4,080	3,511	3,511	3,511	3,511	3,511	⑦①-②+④+⑤+⑥
⑧加算料(円) (目標-月)	340	293	293	293	293	340	293	293	293	293	293	⑧①-②+④+⑤+⑥
⑨加算料(円) (定-月)	170	147	147	147	147	170	147	147	147	147	147	⑨①-②+④+⑤+⑥
⑩指定設備管理費の適用のないサービスの総額(千円)	3,166	3,234	3,234	3,234	3,234	3,166	3,234	3,234	3,234	3,234	3,234	⑩①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑪加算料増減コスト(百万円)	6,495	5,705	5,945	6,208	6,460	6,495	6,207	5,910	5,642	6,096	6,140	⑪①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑫引当金(千円) (目標)	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500	⑫①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
⑬有価証券以外の負債の額(円)	3,861	3,861	3,861	3,861	3,861	3,861	3,861	3,861	3,861	3,861	3,861	⑬①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

イ. 加算料

1. 基本料

ア. 加算料

区分	金額等										備考	
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	①フレキシブルファイバを除いたもの						
①原価(百万円)	107,539	84,109	85,827	85,270	82,221	105,370	82,548	82,318	81,610	80,515	80,515	(参考)1) ①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
②加算料増減コスト(百万円)	6,495	5,705	5,945	6,208	6,460	6,307	5,910	5,642	6,096	6,140	6,140	Aの①より
③定額(千円)	3,181	3,248	3,303	3,330	3,671	3,131	3,194	3,325	3,487	3,603	3,603	(参考)2) ①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
④12月分のコスト(円) (定-月)	2,648	2,268	2,167	2,055	1,947	2,648	2,268	2,167	2,055	1,947	1,947	(参考)1) ①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

イ. 加算料

1. 基本料

ア. 加算料

区分	金額等										備考	
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	①フレキシブルファイバを除いたもの						
①原価(百万円)	2,151	1,957	1,924	1,835	1,732	2,117	1,923	1,893	1,802	1,700	1,700	(参考)1) ①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
②定額(千円)	1,182	1,250	1,304	1,331	1,672	1,132	1,196	1,326	1,489	1,604	1,604	(参考)2) ①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳
③12月分のコスト(円) (定-月)	96	50	47	43	35	96	50	47	43	35	35	③①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

イ. 加算料

1. 基本料

ア. 加算料

区分	金額等										備考	
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	①フレキシブルファイバを除いたもの						
①12月分のコスト	2,705	2,318	2,214	2,088	1,986	2,705	2,318	2,214	2,088	1,986	1,986	①①-②+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

イ. 加算料

1. 基本料

ア. 加算料

区分	金額等										備考	
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	①フレキシブルファイバを除いたもの						
①12月分のコスト	170	147	147	147	147	170	147	147	147	147	147	Aの①より

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

イ. 加算料

1. 基本料

ア. 加算料

・先番号主簿末回録

(1) 原簿の算定

区分	増減系前定額(先番号の借込に係るもの)						備考
	右記以外	9/71-2に係る 営業時間外追加3414円分		フレキシブルファイ ファイの 増加分	引当繰	最終スプレッド	
①指定設備管理運営費	115,338	44,420	43,993	1,443	68,748	727	(参考1)設備区分別の費用明細表より
②他人資本費用	1,950	1,809	1,908	18	9	15	③引当繰×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	27,150	26,976	26,574	247	124	204	③引当繰×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	11,816	11,270	11,270	108	93	87	⑤自己資本費用+⑥有利子負債以外の負債の額×利率(借当率)×利益対応税率
⑤合計	156,054	84,275	83,845	1,814	68,954	1,033	⑦②-③-④
⑥正味固定資産	884,955	890,186	890,186	7,824	0	8,495	(参考2)設備区分別固定資産明細表より
⑦投資等	1,124	1,105	1,105	10	0	8	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	5,878	5,781	5,781	53	0	44	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨繰越剰余金	5,796	2,817	2,864	88	4,006	44	⑩設備管理運営費-(⑪増減償却費-(⑫固定資産減損))×43,623日÷365日
⑩引当繰	878,264	889,889	889,889	7,976	8,806	8,591	⑥⑦-⑧-⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	132,873	130,160	130,152	1,208	607	598	⑥引当繰×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫増減償却費	18,986	7,341	7,341	112	11,472	61	
⑬減価償却費	41,061	15,668	15,668	598	24,485	310	(参考1)設備区分別の費用明細表より
⑭固定資産減損	1,243	473	473	22	740	8	

(2) 追加コストの算定

① 基本料

② 加入者回線

区分	金額等						[再]フレキシブルファイ回線以外のもの					備考
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
①原簿(百万円)	83,845	69,251	67,727	67,146	66,177	82,528	68,102	66,570	65,950	64,955	③2018年度は先番号主簿末回録の①の⑤(①②に係る営業時間外追加3414円分) ④2019-2022年度は(①②)より	
②追加料増当コスト(百万円)	5,053	4,181	4,287	4,476	4,614	4,973	4,121	4,213	4,386	4,528	(①②)より	
③定額数(千円)	3,181	3,248	3,383	3,530	3,671	3,131	3,194	3,325	3,467	3,603	③2018年度は収、料金設定に使用した回線数より ④2019-2022年度は(①②)より	
④①追加コスト(円)⑤(円)	2,084	1,868	1,563	1,480	1,398	2,064	1,869	1,563	1,480	1,398	⑥①-②)÷③×12ヶ月	

③ 主記線路

区分	金額等						[再]フレキシブルファイ回線以外のもの					備考
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
①原簿(百万円)	2,151	1,957	1,824	1,835	1,733	2,117	1,923	1,893	1,863	1,769	③2018年度は先番号主簿末回録の①の⑤(①②に係る営業時間外追加3414円分) ④2019-2022年度は(①②)より	
②定額数(千円)	3,182	3,250	3,384	3,531	3,672	3,132	3,194	3,326	3,468	3,603	③2018年度は収、料金設定に使用した回線数より ④2019-2022年度は(①②)より	
③①追加コスト(円)⑤(円)	56	50	47	43	38	56	50	47	43	38	⑥①-②)÷③×12ヶ月	

④ 加算料

区分	金額等						[再]フレキシブルファイ回線以外のもの					備考
	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
①加算料(円)⑤(円)	170	147	147	147	147	170	147	147	147	147	先番号主簿末回録の①の⑤①	
②先番号主簿末回録コストに占める先番号主簿末回録コストの割合	77.93%	73.95%	72.11%	71.95%	71.76%	77.93%	73.95%	72.11%	71.95%	71.76%	①の⑤①÷先番号主簿末回録の①の⑤①	
③加算料(主簿末回録)(円)⑤(円)	133	108	106	106	106	133	108	106	106	106	③×②	

イ. 1 芯あたり単価

(1) 当期網使用料に係る実績原価

a. 2018年度

区分	指定設備管理部門								備考
	期末系伝送路(光信号の伝送に係るもの)					主記線室			
	上記以外	タイプ-2、2.1に係る営業時間外追加コスト以外		フシキョブルファイバ等専有部分	主線末回線に係る引込線	局外スプリッタ	上記線室(光信号の伝送に係るもの)		
①指定設備管理運営費	115,338	53,296	52,827	1,443	59,871	727	1,804	1,793	(参考1) 設備区分別の費用明細表より
②他人資本費用	1,950	1,910	1,910	18	8	15	17	17	⑩レートベース×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	27,150	26,592	26,590	247	108	204	239	239	⑩レートベース×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	11,816	11,377	11,376	106	46	87	102	102	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	156,054	93,175	92,703	1,814	60,033	1,033	2,162	2,151	①+②+③+④
⑥正味固定資産	864,505	850,186	850,186	7,824	0	6,495	7,579	7,579	(参考2) 設備区分別固定資産明細表より
⑦投資等	1,124	1,105	1,105	10	0	8	10	10	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	5,879	5,781	5,781	53	0	44	52	52	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	6,756	3,136	3,077	89	3,488	44	88	87	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	878,264	860,208	860,149	7,876	3,488	6,591	7,729	7,728	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	132,973	130,239	130,230	1,208	528	998	1,170	1,170	⑩レートベース×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	18,986	8,819	8,819	112	9,994	61	118	118	
⑬減価償却費	41,061	18,822	18,822	598	21,331	310	968	968	(参考1) 設備区分別の費用明細表より
⑭固定資産除却損	1,243	569	569	22	644	8	11	11	

b. 2019年度

区分	指定設備管理部門					備考
	光信号伝送路			主記線室		
	タイプ-2、2.1に係る営業時間外追加コスト以外	引込線(分岐引込線以外)	引込線工事料(分岐引込線以外)	上記以外	(光信号の伝送に係るもの)	
①指定設備管理運営費	52,669	13,119	2,429	37,121	1,610	(別添1)(別添2)より
②他人資本費用	1,984	2	0	1,982	17	⑩レートベース×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	27,633	24	5	27,605	231	⑩レートベース×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	11,823	10	2	11,811	99	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	94,109	13,155	2,436	78,519	1,957	①+②+③+④
⑥正味固定資産	883,547	0	0	883,547	7,325	(別添1)(別添2)より
⑦投資等	1,149	0	0	1,149	10	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	6,008	0	0	6,008	50	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	3,181	781	147	2,254	80	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	893,885	781	147	892,958	7,465	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	135,338	118	22	135,197	1,130	⑩レートベース×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	10,235	2,553	472	7,210	114	
⑬減価償却費	16,312	4,147	752	11,413	844	(別添1)(別添2)より
⑭固定資産除却損	671	171	31	469	10	

c. 当期網使用料に係る実績原価

区分	2018年度	2019年度	備考
①加入者回線	92,703	78,519	2018年度:aの⑤(端末系伝送路・右記以外(イ71-2.2)に係る営業時間外追加コスト以外) 2019年度:bの⑤(光信号端末回線(イ71-2.2)に係る営業時間外追加コスト以外・左記以外)
②主配線盤	2,151	1,957	2018年度:aの⑤(主配線盤(イ71-2.2)に係る営業時間外追加コスト以外) 2019年度:bの⑤(主配線盤(イ71-2.2)に係る営業時間外追加コスト以外)
③合計	94,854	80,476	①+②

d. 2018年度適用接続料に加工した乗継額

区分	2018年度	2019年度	備考
①加入者回線	7,228	▲834	2018年度:2018年度適用網使用料算定根拠のⅡの1の1-1のイの(4)の①(平成27年度(平成29年度に加工))+2018年度適用網使用料算定根拠のⅡの1の1-1のイの(5)のbの① 2019年度:2019年度適用網使用料算定根拠のイの(3)のcの①
②主配線盤	▲152	130	2018年度:2018年度適用網使用料算定根拠のⅡの1の1-1のイの(4)の②(平成27年度(平成29年度に加工))+2018年度適用網使用料算定根拠のⅡの1の1-1のイの(5)のbの② 2019年度:2019年度適用網使用料算定根拠のイの(3)のcの②
③合計	7,076	▲704	①+②

e. 原価

区分	2018年度	2019年度	備考
①加入者回線	99,931	77,685	cの①+dの①
②主配線盤	1,999	2,087	eの②+dの②
③合計	101,930	79,772	①+②

(2) 当期網使用料に係る2018~2019年度の収入額

a. 稼働芯線数

区分	2018年度	2019年度	備考
①光信号端末回線	1,167	1,152	-2018年度については稼働芯線数 -2019年度については別添より
②負担金なし	1,152	1,138	
③負担金あり	15	14	
④光信号主端回線	2,014	2,097	
⑤加入者回線	3,181	3,248	
⑥主配線盤	3,182	3,250	

b. 収入額の算定

区分	2018年度	2019年度	備考
①光信号端末回線	41,069	32,141	②+③
②負担金なし	40,573	31,778	2018年度:aの②×2,935円×12ヶ月 2019年度:aの②×2,327円×12ヶ月
③負担金あり	496	383	2018年度:aの③×2,758円×12ヶ月 2019年度:aの③×2,159円×12ヶ月
④光信号主端回線	55,538	43,483	2018年度:aの④×2,298円×12ヶ月 2019年度:aの④×1,728円×12ヶ月
⑤加入者回線	96,607	75,624	①+④
⑥主配線盤	1,642	1,755	2018年度:aの⑤×43円×12ヶ月 2019年度:aの⑤×46円×12ヶ月
⑦合計	98,249	77,379	⑤+⑥

(3) 乗継額の算定

区分	2018年度	2019年度	備考
①加入者回線	3,324	2,061	(1)のaの①-(2)のbの⑤
②主配線盤	357	332	(1)のaの②-(2)のbの⑥
③合計	3,681	2,393	①+②

(4) 乗継額(加入者回線)の設備別分計

a. 原価の内訳

区分	2018年度	2019年度	備考
①加入者回線	92,703	78,519	(1)のcの①
②光信号主端回線	83,845	69,251	(別添3)より
③光信号端末回線に係る引込線	8,858	9,288	①-②
④原価に占める光信号端末回線に係る引込線比率	9.56%	11.80%	③÷①

b. 光信号端末回線原価の内訳

区分	2018年度	2019年度	備考
①光信号端末回線	107,559	94,109	(別添1)より
②下記以外	101,100	88,404	①-③
③加算料相当コスト	6,459	5,705	(別添1)より
④原価に占める加算料相当コスト比率	6.01%	6.06%	③÷①

c. 乗継額の内訳

区分	2018年度	2019年度	備考
①加入者回線	3,324	2,061	(3)の①
②光信号主端回線	3,006	1,818	①-⑤
③下記以外	2,825	1,708	②-④
④加算料相当コスト	181	110	②×bの④
⑤光信号端末回線に係る引込線相当	318	243	①×aの④
⑥下記以外	299	228	⑤-⑦
⑦加算料相当コスト	19	15	⑤×bの④
⑧主配線盤	357	332	(3)の②
⑨合計	3,681	2,393	①+⑧

d. 2018年度-2019年度率額額の分計

(単位:百万円)

区分	2018年度	2019年度	2018年度-2019年度合計		備考
			2021年度 に加盟	2022年度 に加盟	
①加入者回線	3,324	2,061	5,385	1,795	2018~2019年度の率額額の合計値を2021年度と2022年度に1:2の比率で分計
②光信号主線末回線	3,006	1,818	4,824	1,608	
③下記以外	2,825	1,708	4,533	1,511	
④加算料相当コスト	181	110	291	97	
⑤光信号主線末回線に係る引込線相当	318	243	561	187	
⑥下記以外	299	228	527	176	
⑦加算料相当コスト	19	15	34	11	
⑧主配線盤	357	332	689	230	
⑨合計	3,681	2,393	6,074	2,025	

(5) 率額額率金の算定

a. 稼働芯線数

(単位:千芯)

区分	金額等		(再)フレキシブルファイバを除いたもの		備考
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	
①光信号主線末回線	1,253	1,315	1,231	1,291	左欄:(別添1)の(参考1)より 右欄:(別添1)の(参考2)より
②加入者回線に占める割合	35.5%	35.8%	-	-	
③負担金なし	1,242	1,306	1,220	1,282	
④負担金あり	11	9	11	9	
⑤光信号主線末回線	2,277	2,356	2,236	2,312	
⑥加入者回線に占める割合	64.50%	64.18%	-	-	
⑦加入者回線	3,530	3,671	3,467	3,603	
⑧主配線盤	3,531	3,672	3,468	3,604	
				d)②	

b. 設備毎に分計

(単位:百万円)

区分	金額等		(再)フレキシブルファイバを除いたもの		備考
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	
①光信号主線末回線	757	1,595	743	1,565	②+③
②主線末回線	712	1,503	699	1,475	左欄:(4)のaの③×aの②+(4)のaの⑤ 右欄:左欄②×(別添1)の(参考2)の②
③加算料	45	92	44	90	左欄:(4)のaの④×aの②+(4)のaの⑦ 右欄:左欄③×(別添1)の(参考2)の②
④光信号主線末回線	1,038	2,065	1,020	2,027	⑤+⑥
⑤主線末回線	975	1,940	958	1,904	左欄:(4)のaの③×aの⑥ 右欄:左欄④×(別添1)の(参考2)の②
⑥加算料	63	125	62	123	左欄:(4)のaの④×aの⑥ 右欄:左欄⑤×(別添1)の(参考2)の②
⑦主配線盤	230	459	226	451	左欄:(4)のaの⑧ 右欄:左欄⑦×(別添1)の(参考2)の②
⑧合計	2,025	4,049	1,989	4,043	①+④+⑦

c. 1芯あたり率額額率金

(単位:円/芯・月)

区分	金額等		(再)フレキシブルファイバを除いたもの		備考
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	
①光信号主線末回線	50	101	50	101	②+③
②下記以外	47	95	47	95	b)の②÷a)の①÷12ヶ月
③加算料相当コスト	3	6	3	6	b)の③÷a)の①÷12ヶ月
④光信号主線末回線	38	73	38	73	⑤+⑥
⑤下記以外	36	69	36	69	b)の⑤÷a)の①÷12ヶ月
⑥加算料相当コスト	2	4	2	4	b)の⑥÷a)の①÷12ヶ月
⑦主配線盤	5	10	5	10	b)の⑦÷a)の①÷12ヶ月

ウ. 1芯あたり原価の算定

a. 加入者回線(光信号端末回線)

(単位:円/芯・月)

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①端末回線	2,214	2,098	1,986	アの光信号端末回線の(2)のBのiのcの①
②乖離額	0	52	105	イの(5)のcの②+イの(5)のcの⑦
③1芯あたり原価計	2,214	2,150	2,091	①+②

b. 加算料(光信号端末回線)

(単位:円/芯・月)

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①加算料	147	147	147	アの光信号端末回線の(2)のBのiiの①
②乖離額	0	3	6	イの(5)のcの③
③1芯あたり原価計	147	150	153	①+②

c. 主配線盤

(単位:円/芯・月)

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①主配線盤	47	43	39	アの光信号端末回線の(2)のBのiのbの③
②乖離額	0	5	10	イの(5)のcの⑦
③1芯あたり原価計	47	48	49	①+②

d. 加入者回線(光信号主端末回線)

(単位:円/芯・月)

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①端末回線	1,610	1,523	1,437	アの光信号主端末回線の(2)のiのaの④+アの光信号主端末回線の(2)のiのbの③
②乖離額	0	41	79	イの(5)のcの⑤+イの(5)のcの⑦
③1芯あたり原価計	1,610	1,564	1,516	①+②

e. 加算料(光信号主端末回線)

(単位:円/芯・月)

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①加算料	106	106	105	アの光信号主端末回線の(2)のiiの③
②乖離額	0	2	4	イの(5)のcの⑥
③1芯あたり原価計	106	108	109	①+②

1-2. 光ケーブル回線、光信号主線回線以外の端末回線伝送機能（加入光ファイバを利用するもの）

(1) 原価の算定

A. 設備区別の費用

(単位: 百万円)

区分	端末系伝送路(電気信号の伝送に係るもの)							備考
	メタル加入者回線	(再編)メタル設備のみを用いる加入者回線					(再編)下部回線	
		(再編)メタル設備のみに用いる加入者回線	(再編)試験受付	(再編)上部回線	(再編)土末設備	(再編)下部回線		
①指定設備管理運営費	167,643	145,967	138,904	3,286	47,861	21,569	91,043	別紙1. 加入者回線・主配線盤の費用明細表および別紙3. メタル設備のみを用いる加入者回線の費用明細表より(全体は参考3より)
②他人資本費用	1,553	1,523	1,422	1	663	480	758	⑩レートの×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	21,620	21,204	19,797	19	9,237	6,884	10,560	⑩レートの×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	9,241	9,072	8,470	8	3,952	2,860	4,518	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	200,057	177,766	168,593	3,314	61,713	31,593	106,879	①+②+③+④

⑥正味固定資産	678,721	667,821	623,167	208	292,767	213,493	330,406	別紙2. 加入者回線・主配線盤の固定資産明細表および別紙4. メタル設備のみを用いる加入者回線の固定資産明細表より(全体は参考4より)
⑦投資等	882	868	810	0	381	278	430	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	4,615	4,541	4,238	1	1,991	1,452	2,247	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	15,158	12,691	12,194	406	3,658	1,001	8,536	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	699,376	685,921	640,409	615	298,797	216,224	341,613	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	105,888	103,851	96,960	93	45,239	32,737	51,722	⑩レートの×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	19,088	18,921	17,630	6	8,283	6,040	9,347	
⑬減価償却費	25,908	24,163	22,451	29	9,949	7,255	12,502	別紙1. 加入者回線・主配線盤の費用明細表および別紙3. メタル設備のみを用いる加入者回線の費用明細表より(全体は参考3より)
⑭固定資産除却損	1,381	1,356	1,274	0	366	267	909	

(単位: 百万円)

区分	端末系伝送路(電気信号の伝送に係るもの)				その他			備考
	OCU	光		メタル	(再編)加入者収容設備(ATM/サーバ伝送)	(再編)固定無線基地局伝送路	(再編)固定無線宅内設備	
		光	メタル					
①指定設備管理運営費	1,065	288	777	217	204	13	0	参考3. 設備区別の費用明細表(端末系伝送路の内訳)より
②他人資本費用	7	2	5	1	1	0	0	⑩レートの×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	101	33	68	9	9	0	0	⑩レートの×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	43	14	29	4	4	0	0	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	1,216	337	879	231	218	13	0	①+②+③+④

⑥正味固定資産	3,162	1,030	2,132	279	266	13	0	参考4. 設備区別の固定資産明細表(端末系伝送路の内訳)より
⑦投資等	4	1	3	0	0	0	0	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	22	7	14	2	2	0	0	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	83	19	65	23	22	1	0	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	3,271	1,057	2,214	304	290	14	0	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	495	160	335	46	44	2	0	⑩レートの×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	47	16	31	6	5	1	0	
⑬減価償却費	348	120	227	23	22	1	0	参考3. 設備区別の費用明細表(端末系伝送路の内訳)より
⑭固定資産除却損	5	2	3	1	1	0	0	

(単位: 百万円)

区分	端末系伝送路(電気信号の伝送に係るもの)			備考
	回線管理運営			
	電話等・ラインシエアレンジング・ドライクックハイ・光ファイバ	DB管理および料金計算	電話等	
①指定設備管理運営費	20,394	19,303	2,159	参考1. 設備区別の費用明細表より
②他人資本費用	22	21	1	⑩レートの×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	305	288	19	⑩レートの×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	130	123	8	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	20,851	19,735	2,187	①+②+③+④

⑥正味固定資産	7,460	7,035	356	参考2. 設備区別固定資産明細表より
⑦投資等	10	9	0	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	51	48	2	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	2,361	2,236	264	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	9,882	9,328	622	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	1,496	1,412	94	⑩レートの×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	114	109	11	
⑬減価償却費	1,375	1,285	34	参考1. 設備区別の費用明細表より
⑭固定資産除却損	19	18	1	

区分	端末系伝送路(電気信号の伝送に係るもの)					備考
	回線管理運営					
	電話等・ラインシェアリング・ドライアップ・光ファイバ					
	DB管理および料金計算					
	相互接続回線				その他	
	ラン シェアリング	ドライアップ	光ファイバ	DLSファイル連携 に係る間接費用		
①指定設備管理運営費	186	396	1,020	53	15,489	参考1. 設備区分別の費用明細表より
②他人資本費用	0	1	1	0	17	⑩レート×ス×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	4	8	17	0	240	⑩レート×ス×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	2	3	7	0	103	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	192	408	1,045	53	15,849	①+②+③+④

⑥正味固定資産	98	196	440	0	5,945	参考2. 設備区分別固定資産明細表より
⑦投資等	0	0	1	0	8	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	1	1	3	0	40	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	22	46	120	7	1,778	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	121	243	564	7	7,771	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	18	37	85	1	1,177	⑩レート×ス×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	2	5	13	0	78	
⑬減価償却費	10	22	44	0	1,175	参考1. 設備区分別の費用明細表より
⑭固定資産除却損	0	0	1	0	15	

区分	端末系伝送路(電気信号の伝送に係るもの)				主配線盤 電気信号の伝送に係るもの		備考
	回線管理運営				その他	(再掲) のみの記載のみを 別に加入者別等に 係る主配線盤	
	MPLSデータ伝送						
	端末回線 伝送機能		データ 伝送機能				
①指定設備管理運営費	71	31	40	1,011	4,718	4,694	参考1. 設備区分別の費用明細表 および別紙1. 加入者回線・主配線盤の費用明細表より
②他人資本費用	0	0	0	1	55	54	⑩レート×ス×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	1	0	0	16	761	758	⑩レート×ス×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	0	0	0	7	326	324	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	72	31	40	1,035	5,860	5,830	①+②+③+④

⑥正味固定資産	14	6	8	413	24,044	23,929	参考2. 設備区分別固定資産明細表 および別紙2. 加入者回線・主配線盤の固定資産明細表より
⑦投資等	0	0	0	1	31	31	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	0	0	0	3	163	163	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	9	4	5	115	395	394	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	23	10	13	532	24,633	24,517	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	3	2	2	81	3,730	3,712	⑩レート×ス×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	0	0	0	5	427	425	
⑬減価償却費	1	0	1	88	1,083	1,069	参考1. 設備区分別の費用明細表 および別紙1. 加入者回線・主配線盤の費用明細表より
⑭固定資産除却損	0	0	0	1	48	48	

区分	端末系伝送路(光信号の伝送に係るもの)			備考
	(再掲) 局外スプレッド (局外4分岐)	(再掲) 局外スプレッド (局内3分岐)		
①指定設備管理運営費	115,338	0	727	参考1. 設備区分別の費用明細表
②他人資本費用	1,950	0	15	⑩レート×ス×他人資本比率×他人資本利率
③自己資本費用	27,150	0	204	⑩レート×ス×自己資本比率×自己資本利率
④利益対応税	11,616	0	87	(③自己資本費用+(①有利子負債以外の負債の額×利子相当率))×利益対応税率
⑤合計	156,054	0	1,033	①+②+③+④

⑥正味固定資産	864,505	0	6,495	参考2. 設備区分別固定資産明細表
⑦投資等	1,124	0	8	⑥正味固定資産×投資等比率
⑧貯蔵品	5,879	0	44	⑥正味固定資産×貯蔵品比率
⑨運転資本	6,756	0	44	(①設備管理運営費-(②租税公課+③減価償却費+④固定資産除却損))×45.625日÷365日
⑩レートベース	878,264	0	6,591	⑥+⑦+⑧+⑨
⑪有利子負債以外の負債の額	132,973	0	998	⑩レート×ス×他人資本比率×有利子負債以外の負債が負債の合計に占める割合
⑫租税公課	18,986	0	61	
⑬減価償却費	41,061	0	310	参考1. 設備区分別の費用明細表
⑭固定資産除却損	1,243	0	8	

B. OCU

光設備を用いるOCU

(a) 前々算定期間における費用

区分	金額等	備考
①前々算定期間における費用(百万円)	337	(1)のAの⑤OCU(光)
②ISDN回線数(回線)	7,418	②の1の⑤1)+②の1の⑤2)
③1回線あたり費用(円/回線(2芯式)・月)	3,786	①÷②÷12ヶ月

(b) 前々算定期間における調整額

区分	金額等	備考
①前々算定期間における接続料金(百万円)	167	2018年度接続料金において加算した調整額

(c) 前々算定期間における接続料に係る収入

区分	金額等	備考
①前々算定期間における需要(回線)	7,418	②の1の⑤1)+②の1の⑤2)
②前々算定期間における接続料金(円/回線・月)	6,301	2018年度適用網使用料算定根拠(加入光ファイバ)の1-2の光番号端末回線、光番号主端末回線以外の端末回線伝送機能(加入光ファイバを利用するもの)のBの(c)の④に2018年度網使用料算定根拠における貸借率を乗じたものを加えたもの
③前々算定期間における接続料に係る収入(百万円)	561	①×②×12ヶ月

(d) 調整額

区分	金額等	備考
①調整額(百万円)	▲ 57	(a)の①)+(b)の①)×(1+X I、料金設定に使用した貸借率)-(c)の③

(e) 原価

区分	金額等	備考
①前々算定期間における費用(百万円)	337	(a)の①)について、2020年度適用の利益対応税率(42.35%(Ⅶより))を用いて算定したもの
②調整額(百万円)	▲ 57	(d)の①
③合計(百万円)	280	①+②
④1回線あたりコスト(円/回線(2芯式)・月)	3,146	③÷(a)の②÷12ヶ月

C. ISM折返し接続機能(15Mb/s)局内伝送路

区分	金額等	備考
①設備管理運営費(円/回線・年)	24,238	接続約款 料金表 第1表 接続料金 第2網改造料の算定式に準拠して、設備管理運営費、他人資本費用、自己資本費用及び利益対応税率を算定した。
②他人資本費用(円/回線・年)	263	
③自己資本費用(円/回線・年)	3,657	
④利益対応税(円/回線・年)	1,583	
⑤ケーブル設備計(円/回線・年)	29,741	①+②+③+④
⑥1回線あたり費用(円/回線・月)	2,478	⑤÷12ヶ月
⑦前々算定期間における調整額(円/回線・月)	▲ 202	2018年度接続料金において加算した調整額
⑧前々算定期間における接続料金(円/回線・月)	2,236	2018年度適用網使用料算定根拠(加入光ファイバ)の1-2の光番号端末回線、光番号主端末回線以外の端末回線伝送機能(加入光ファイバを利用するもの)のCの①に2018年度網使用料算定根拠における貸借率を乗じたものを加えたもの
⑨調整額(円/回線・月)	38	(⑥+⑦)×(1+X I、料金設定に使用した貸借率)-⑧
⑩1回線あたり費用(円/回線・月)	2,478	⑥について、2020年度適用の利益対応税率(42.35%(Ⅶより))を用いて算定したもの
⑪1回線あたり原価(円/回線・月)	2,516	⑩+⑨

D. (削除)

E. (削除)

F. 局外スプリッタ(局外8分岐)

(a) 前々算定期間における費用

区分	金額等	備考
①前々算定期間における費用(百万円)	1,033	Aの⑤局外スプリッタ(局外8分岐)
②回線数(回線)	2,014,964	区の1の(106)
③1回線あたり費用(円/回線・月)	43	①÷②÷12ヶ月

(b) 前々算定期間における調整額

区分	金額等	備考
①前々算定期間における調整額(百万円)	▲ 584	2018年度接続料金において加算した調整額

(c) 前々算定期間における接続料に係る収入

区分	金額等	備考
①前々算定期間における需要(回線)	2,014,964	区の1の(106)
②前々算定期間における接続料金(円/回線・月)	19	2018年度適用網使用料算定根拠(加入光ファイバ)の1-2の光信号端末回線、光信号主端末回線以外の端末回線伝送機能(加入光ファイバを利用するもの)のFの(e)の③に2018年度網使用料算定根拠における貸借率を乗じたものを加えたもの
③前々算定期間における接続料に係る収入(百万円)	459	②×②×12ヶ月

(d) 調整額

区分	金額等	備考
①調整額(百万円)	▲ 10	(a)の①+(b)の①×(1+X I. 料金設定に使用した貸借率)-(c)の③

(e) 原価

区分	金額等	備考
①前々算定期間における費用(百万円)	1,033	(a)の①について、2020年度適用の利益対応税率(42.35%(値より))を用いて算定したもの
②調整額(百万円)	▲ 10	Fの(a)の①+Gの(d)の①
③合計(百万円)	1,023	①+②
④1回線あたりコスト(円/回線・月)	42	③÷(a)の②÷12ヶ月

G. 局外スプリッタ(局外4分岐)

(a) 前々算定期間における費用

区分	金額等	備考
①前々算定期間における費用(百万円)		Aの⑤局外スプリッタ(局外4分岐)
②回線数(回線)	375	区の1の(102)
③1回線あたり費用(円/回線・月)	-	①÷②÷12ヶ月

(b) 前々算定期間における調整額

区分	金額等	備考
①前々算定期間における調整額(百万円)	-	2018年度接続料金において加算した調整額

(c) 前々算定期間における接続料に係る収入

区分	金額等	備考
①前々算定期間における需要(回線)	375	区の1の(102)
②前々算定期間における接続料金(円/回線・月)		2018年度適用網使用料算定根拠(加入光ファイバ)の1-2の光信号端末回線、光信号主端末回線以外の端末回線伝送機能(加入光ファイバを利用するもの)のGの(e)の④に2018年度網使用料算定根拠における貸借率を乗じたものを加えたもの
③前々算定期間における接続料に係る収入(百万円)	-	①×②×12ヶ月

(d) 調整額

区分	金額等	備考
①調整額(百万円)	-	(a)の①+(b)の①×(1+X I. 料金設定に使用した貸借率)-(c)の③

H. 光分岐端末回線

a. 原価の算定

区分	単芯区間				備考
	単芯ケーブル	クロージャ内接続	ケーブル	ケーブル	
①創設費 (円/回線)	29,802	23,679	4,621	1,502	
②設備管理運営費 (円/回線・年)	2,970	2,676	222	72	・接続料 料金表 第1表 接続料金 第2 網改造料の算定式に準拠して、設備管理運営費(減価償却費は耐用年数を15年で算定)、他人資本費用、自己資本費用及び利益対応税を算定した。なお、利益対応税については、2018年度適用の利益対応税率(42.35%(償より))を用いて算定した。
(再)減価償却費相当 (円/回線・年)	1,539	1,539	0	0	
③他人資本費用 (円/回線・年)	26	26	0	0	・単芯ケーブルについては平日以外の日に設置の場合と平日設置の場合の差額を工事料として個別回収するため、減価償却費は、平日設置の場合の創設費(23,170円)を基礎に算定している。また、クロージャ内接続およびケーブルの設置コストは工事料として回収するため、減価償却費は発生しない。
④自己資本費用 (円/回線・年)	3	3	0	0	・単芯ケーブルの減価償却費相当については、耐用年数(15年)を経過した回線数の構成比(0.84%)を仮定して算定した。 ・保守運営費相当については、除却費を個別に支払う場合の係数(0.046)により算定した。
⑤利益対応税 (円/回線・年)	3	3	0	0	
⑥合計 (円/回線・年)	3,002	2,708	222	72	②+③+④+⑤

区分	電柱	備考
①引込線あたり電柱資産額 (円/回線)	30,391	
②設備管理運営費 (円/回線・年)	2,614	・接続料 料金表 第1表 接続料金 第2 網改造料の算定式に準拠して、設備管理運営費、他人資本費用、自己資本費用及び利益対応税を算定した。なお、利益対応税については、2018年度適用の利益対応税率(42.35%(償より))を用いて算定した。
(再)減価償却費相当 (円/回線・年)	1,094	
③他人資本費用 (円/回線・年)	35	・引込線あたり電柱資産額は、2018年度実績の引込線に係る電柱設備の取得固定資産額(244,902百万円)を引込線数(8,058,447回線)で除して算定した。
④自己資本費用 (円/回線・年)	484	・保守運営費相当については、残価一括償却に係る費用を含めた、除却費を個別に支払う場合以外の係数(0.05)により算定した。
⑤利益対応税 (円/回線・年)	207	
⑥合計 (円/回線・年)	3,340	②+③+④+⑤

b. 原価

(a) 2-1-1-1-1 第2種ウ線又は第6種イ欄に規定する機能に係る加算料のA 光信号分岐端末回線に係る加算料の(4) 当社の光屋内配線(主として一戸建ての建物に設置される形態により設置するものに限ります。)を利用しないもの
 ① 当社が設置した光信号分岐端末回線収容ケーブル等にその光信号分岐端末回線が収容等されているもの

区分	金額等	備考
①費用計(円/回線・年)	6,342	aの⑤単芯区間+⑥電柱
②前々算定期間における調整額(円/回線・年)	114	2018年度接続料金において加算した調整額
③前々算定期間における収入(円/回線・年)	6,276	2018年度適用網使用料×12ヶ月
④調整額(円/回線・年)	180	(①+②)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率) - ③
⑤費用計(円/回線・年)	6,342	①について、2020年度適用の利益対応税率(42.35%(償より))を用いて算定したもの
⑥1回線あたり原価計(円/回線・月)	544	(④+⑤)÷12ヶ月

(b) 2-1-1-1-1 第2種ウ線又は第6種イ欄に規定する機能に係る加算料のA 光信号分岐端末回線に係る加算料の(4) 当社の光屋内配線(主として一戸建ての建物に設置される形態により設置するものに限ります。)を利用しないもの
 ② 協定事業者が設置した光信号分岐端末回線収容ケーブル等にその光信号分岐端末回線が収容等されているもの

区分	金額等	備考
①費用計(円/回線・年)	6,270	aの⑤単芯ケーブル+⑥クロージャ内接続+⑥電柱
②前々算定期間における調整額(円/回線・年)	113	2018年度接続料金において加算した調整額
③前々算定期間における収入(円/回線・年)	6,204	2018年度適用網使用料×12ヶ月
④調整額(円/回線・年)	179	(①+②)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率) - ③
⑤費用計(円/回線・年)	6,270	①について、2020年度適用の利益対応税率(42.35%(償より))を用いて算定したもの
⑥1回線あたり原価計(円/回線・月)	537	(④+⑤)÷12ヶ月

(c) 2-1-1-1-1 第2種ウ線又は第6種イ欄に規定する機能に係る加算料のA 光信号分岐端末回線に係る加算料の(7) 当社の光屋内配線(主として一戸建ての建物に設置される形態により設置するものに限ります。)を利用するもの

区分	金額等	備考
①費用計(円/回線・年)	6,277	(a)と(b)の①についてケーブル設置率(2018年度実績(ケーブル設置:10.2%, 引き通し:89.8%))で加重して算定
②前々算定期間における調整額(円/回線・年)	113	2018年度接続料金において加算した調整額
③前々算定期間における収入(円/回線・年)	6,204	2018年度適用網使用料×12ヶ月
④調整額(円/回線・年)	186	(①+②)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率) - ③
⑤費用計(円/回線・年)	6,277	①について、2020年度適用の利益対応税率(42.35%(償より))を用いて算定したもの
⑥1回線あたり原価計(円/回線・月)	539	(④+⑤)÷12ヶ月

(2) 料金の設定

①基本料

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第3欄で接続する場合) 端末回線により伝送を行う機能のE 2芯式のものの(ウ) (ア)以外のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	4,561	4,429	4,307	1-1のウのaの③×Xの保守換算係数の3の③のタイプ2のもの×2(芯)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第2-3欄で接続する場合)のイ 端末回線により伝送を行う機能(1538Mbps/sの符号伝送が可能なものに限ります。)(ア) 保守の区別がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	備考
①OCU(円/回線・月)	3,146	Bの(e)の④
②主配線盤(円/回線・月)	94	1-1のウのcの③×2(芯)
③局内伝送路(円/回線・月)	2,516	Cの①
④料金(円/回線・月)	5,756	(①+②+③)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第2-3欄で接続する場合)のイ 端末回線により伝送を行う機能(1538Mbps/sの符号伝送が可能なものに限ります。)(イ) 保守の区別がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	備考
①OCU(円/回線・月)	3,146	Bの(e)の④×Xの保守換算係数の3の③のタイプ1-2のもの
②主配線盤(円/回線・月)	94	1-1のウのcの③×2(芯)×Xの保守換算係数の3の③のタイプ1-2のもの
③局内伝送路(円/回線・月)	2,516	Cの①×Xの保守換算係数の2の③のタイプ1-2のもの
④料金(円/回線・月)	5,756	(①+②+③)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のア 光番号端末回線(光局外スプリッタを含まないものに限ります。))により芯にて伝送を行う機能の(ア) 光回線設備接続モジュール(光回線設備を構成する装置であって、配線盤に設置するものをいいます。以下同じとします。))においてフィルタ(保守利用を目的として光番号の一部の帯域を制限するものをいいます。以下同じとします。))を利用する場合の① 保守の区分がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	2,214	2,150	2,091	1-1のウのaの③×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のア 光番号端末回線(光局外スプリッタを含まないものに限ります。))により芯にて伝送を行う機能の(ア) 光回線設備接続モジュールにおいてフィルタを利用する場合の② 保守の区分がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	2,214	2,150	2,091	1-1のウのaの③×Xの保守換算係数の3の③のタイプ1-2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のア 光番号端末回線(光局外スプリッタを含まないものに限ります。))により芯にて伝送を行う機能の(ア) 光回線設備接続モジュールにおいてフィルタを利用する場合の③ ①②以外のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	2,280	2,215	2,154	1-1のウのaの③×Xの保守換算係数の3の③のタイプ2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のア 光番号端末回線(光局外スプリッタを含まないものに限ります。))により芯にて伝送を行う機能の(イ) 光回線設備接続モジュールにおいてフィルタを利用しない場合の① 保守の区分がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	2,214	2,150	2,091	1-1のウのaの③×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のア 光番号端末回線(光局外スプリッタを含まないものに限ります。))により芯にて伝送を行う機能の(イ) 光回線設備接続モジュールにおいてフィルタを利用しない場合の② 保守の区分がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	2,214	2,150	2,091	1-1のウのaの③×Xの保守換算係数の3の③のタイプ1-2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り、)により1芯にて伝送を行う機能の(イ) 光回線設備接続モジュールにおいてフィルタを利用しない場合の③ ①②以外のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	2,280	2,215	2,154	1-1のウのaの③×Xの保守換算係数の3の③のタイプ2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り、)により1芯にて伝送を行う機能の(イ) 保守の区別がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①局外スプリッタ(8分岐のもの)(円/回線・月)	42	42	42	Fの(e)の④
②光信号主端末回線(円/回線・月)	1,610	1,564	1,516	1-1のウのaの③
③加算料(局舎～引込分岐点間)(円/回線・月)	106	108	109	1-1のウのaの③
④料金(円/回線・月)	1,758	1,714	1,667	(①+②+③)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り、)により1芯にて伝送を行う機能の(イ) 保守の区別がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①局外スプリッタ(8分岐のもの)(円/回線・月)	42	42	42	Fの(e)の④×Xの保守換算係数の3の③のタイプ1-2のもの
②光信号主端末回線(円/回線・月)	1,610	1,564	1,516	1-1のウのaの③×Xの保守換算係数の3の③のタイプ2のもの
③加算料(局舎～引込分岐点間)(円/回線・月)	106	108	109	1-1のウのaの③
④料金(円/回線・月)	1,758	1,714	1,667	(①+②+③)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り、)により1芯にて伝送を行う機能の(イ) (イ)以外のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
①局外スプリッタ(8分岐のもの)(円/回線・月)	43	43	43	Fの(e)の④×Xの保守換算係数の3の③のタイプ2のもの
②光信号主端末回線(円/回線・月)	1,658	1,611	1,561	1-1のウのaの③×Xの保守換算係数の3の③のタイプ2のもの
③加算料(局舎～引込分岐点間)(円/回線・月)	106	108	109	1-1のウのaの③
④料金(円/回線・月)	1,807	1,762	1,713	(①+②+③)×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

②加算料

・専用サービス契約款に規定する施設設置負担金等の適用がない場合の加算料 イ 1 芯式のものを(イ) 2-1-1-1第6欄A欄に規定する機能(1芯にて伝送を行うものをいいます。)に係るもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	147	150	153	1-1-1のウのbの③×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・2-1-1-1第2欄ウ欄又は第6欄イ欄に規定する機能に係る加算料の ア 光信号分岐端末回線に係る加算料の(7) 当社の光屋内配線(主として一戸建ての建物に設置される形態により設置するものに限ります。)を利用するもの

A 保守の区別がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	539	Hのbの(c)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ1-1のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

B 保守の区別がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	539	Hのbの(c)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ1-2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

C AB以外のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	555	Hのbの(c)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・2-1-1-1第2欄ウ欄又は第6欄イ欄に規定する機能に係る加算料の ア 光信号分岐端末回線に係る加算料の(イ) 当社の光屋内配線(主として一戸建ての建物に設置される形態により設置するものに限ります。)を利用しないもの
 ① 当社が設置した光信号分岐端末回線収容キャビネット等にその光信号分岐端末回線が収容等されているもの

A 保守の区別がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	544	Hのbの(a)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ1-1のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

B 保守の区別がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	544	Hのbの(a)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ1-2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

C AB以外のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	560	Hのbの(a)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・2-1-1-1第2欄ウ欄又は第6欄イ欄に規定する機能に係る加算料の ア 光信号分岐端末回線に係る加算料の(イ) 当社の光屋内配線(主として一戸建ての建物に設置される形態により設置するものに限ります。)を利用しないもの
 ② 協定事業者が設置した光信号分岐端末回線収容キャビネット等にその光信号分岐端末回線が収容等されているもの

A 保守の区別がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	537	Hのbの(b)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ1-1のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

B 保守の区別がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	537	Hのbの(b)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ1-2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

C AB以外のもの

区分	2020年度	備考
料金(円/回線・月)	553	Hのbの(b)の⑤×Xの保守換算係数の2の③のタイプ2のもの×(1+X I. 料金設定に使用した貸倒率)

・2-1-1-1第2欄ウ欄又は第6欄イ欄に規定する機能に係る加算料の イ 光信号主端末回線に係る加算料の(7) 保守の区別がタイプ1-1のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	1,758	1,714	1,667	①の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリックを含むものに限ります。)により1芯にて伝送を行う機能の(7) 保守の区別がタイプ1-1のもの

・2-1-1-1第2欄ウ欄又は第6欄イ欄に規定する機能に係る加算料の イ 光信号主端末回線に係る加算料の(イ) 保守の区別がタイプ1-2のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	1,758	1,714	1,667	①の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリックを含むものに限ります。)により1芯にて伝送を行う機能の(イ) 保守の区別がタイプ1-2のもの

・2-1-1-1第2欄ウ欄又は第6欄イ欄に規定する機能に係る加算料の イ 光信号主端末回線に係る加算料の(ウ) (7)X以外のもの

区分	2020年度	2021年度	2022年度	備考
料金(円/回線・月)	1,807	1,762	1,715	①の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリックを含むものに限ります。)により1芯にて伝送を行う機能の(ウ) (7)X以外のもの

1-3. 光信号主端末回線(複数年段階料金)

・料金の設定

①基本料

・2-1-1-1の2 複数年段階料金を適用する場合の基本料

a. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
ア 保守の区別がタイプ1-1のもの のうち(ア)2020年4月1日から2021年3月31日まで適用する料金

区分	2020年度	備考
①通常料金 (円/回線・月)	1,758	Ⅱの1-2の(2)の①基本料の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の(ア) 保守の区別がタイプ1-1のもの
②割引率	11.9%	別紙の(2)の③
③割引額	209	①×②
④料金 (円/回線・月)	1,549	①-③

b. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
ア 保守の区別がタイプ1-1のもの のうち(イ)2021年4月1日から2022年3月31日まで適用する料金

区分	2021年度	備考
①料金 (円/回線・月)	-	

c. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
ア 保守の区別がタイプ1-1のもの のうち(ウ)2022年4月1日以降に適用する料金(2022年4月1日以降に適用する2-1-1-1第6欄イ(ア)欄に規定する料金額に加算する料金)

区分	2022年度	備考
①通常料金 (円/回線・月)	-	
②平均利率	0.66%	Ⅵ.他人資本利率の算定 (1)有利子負債に対する利率
③加算額	212	aの③×(1+②)×(1+②)
④料金 (円/回線・月)	212	①+③

d. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
イ 保守の区別がタイプ1-2のもの のうち(ア)2020年4月1日から2021年3月31日まで適用する料金

区分	2020年度	備考
①通常料金 (円/回線・月)	1,758	Ⅱの1-2の(2)の①基本料の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の(イ) 保守の区別がタイプ1-2のもの
②割引率	11.9%	別紙の(2)の③
③割引額	209	①×②
④料金 (円/回線・月)	1,549	①-③

e. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
イ 保守の区別がタイプ1-2のもの のうち(イ)2021年4月1日から2022年3月31日まで適用する料金

区分	2021年度	備考
①料金 (円/回線・月)	-	

f. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
イ 保守の区別がタイプ1-2のもの のうち(ウ)2022年4月1日以降に適用する料金(2022年4月1日以降に適用する2-1-1-1第6欄イ(イ)欄に規定する料金額に加算する料金)

区分	2022年度	備考
①通常料金 (円/回線・月)	-	
②平均利率	0.66%	Ⅵ.他人資本利率の算定 (1)有利子負債に対する利率
③加算額	212	dの③×(1+②)×(1+②)
④料金 (円/回線・月)	212	①+③

g. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
ウ アイ以外のもの のうち(ア)2020年4月1日から2021年3月31日まで適用する料金

区分	2020年度	備考
①通常料金 (円/回線・月)	1,807	Ⅱの1-2の(2)の①基本料の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の(ウ) (ア)以外のもの
②割引率	11.9%	別紙の(2)の③
③割引額	215	①×②
④料金 (円/回線・月)	1,592	①-③

h. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
ウ アイ以外のもの のうち(イ)2021年4月1日から2022年3月31日まで適用する料金

区分	2021年度	備考
①料金 (円/回線・月)	-	

i. 端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)の 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限り。))により1芯にて伝送を行う機能の
ウ アイ以外のもの のうち(ウ)2022年4月1日以降に適用する料金(2022年4月1日以降に適用する2-1-1-1第6欄イ(ウ)欄に規定する料金額に加算する料金)

区分	2022年度	備考
①通常料金 (円/回線・月)	-	
②平均利率	0.66%	Ⅵ.他人資本利率の算定 (1)有利子負債に対する利率
③加算額	218	gの③×(1+②)×(1+②)
④料金 (円/回線・月)	218	①+③

②加算料

・2-1-1-2の2 複数段階料金を適用する場合の加算料

a. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のア 保守の区別がタイプ1-1のもの のうち(ア)2020年4月1日から2021年3月31日まで適用する料金

区分	2020年度	備考
料金 (円/回線・月)	1,549	①基本料のaより

b. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のア 保守の区別がタイプ1-1のもの のうち(イ)2021年4月1日から2022年3月31日まで適用する料金

区分	2021年度	備考
料金 (円/回線・月)	-	

c. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のア 保守の区別がタイプ1-1のもの のうち(ウ)2022年4月1日以降に適用する料金(2022年4月1日以降に適用する2-1-1-1第6欄イ(ア)欄に規定する料金額に加算する料金)

区分	2022年度	備考
料金 (円/回線・月)	212	①基本料のcより

d. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のイ 保守の区別がタイプ1-2のもの のうち(ア)2020年4月1日から2021年3月31日まで適用する料金

区分	2020年度	備考
料金 (円/回線・月)	1,549	①基本料のdより

e. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のイ 保守の区別がタイプ1-2のもの のうち(イ)2021年4月1日から2022年3月31日まで適用する料金

区分	2021年度	備考
料金 (円/回線・月)	-	

f. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のイ 保守の区別がタイプ1-2のもの のうち(ウ)2022年4月1日以降に適用する料金(2022年4月1日以降に適用する2-1-1-1第6欄イ(ア)欄に規定する料金額に加算する料金)

区分	2022年度	備考
料金 (円/回線・月)	212	①基本料のfより

g. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のウ アイ以外のものうち(ア)2020年4月1日から2021年3月31日まで適用する料金

区分	2020年度	備考
料金 (円/回線・月)	1,592	①基本料のgより

h. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のウ アイ以外のものうち(イ)2021年4月1日から2022年3月31日まで適用する料金

区分	2021年度	備考
料金 (円/回線・月)	-	

i. 2-1-1-1第2欄ウ欄に規定する機能に係る加算料の 光信号主端末回線に係る加算料のウ アイ以外のもの のうち(ウ)2022年4月1日以降に適用する料金(2022年4月1日以降に適用する2-1-1-1第6欄イ(ア)欄に規定する料金額に加算する料金)

区分	2022年度	備考
料金 (円/回線・月)	218	①基本料のiより

(別紙) 割引率の算定

(情報通信行政・郵政行政審議会答申(情報審第33号)別添に記載された「エントリーメニューに係る接続料水準に関する考え方」に基づき算定)

(1) メタルと光の1ユーザあたりコストが同水準となる獲得ユーザ数の算定

区分	2020年度	備考
①ドライカッパ接続料 (円/回線・月)	1,471	2020年度適用網使用料算定根拠のⅡの1の(2)の①基本料の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-2欄で接続する場合) 端末回線により伝送を行う機能のA イ以外のものの(7) (イ)以外の場合の① 保守の区別がタイプ1-1のもの
②光信号主端末回線接続料 (円/回線・月)	1,758	Ⅱの1-2の(2)の①基本料の端末回線伝送機能(第5条(標準的な接続箇所)第1項の表中第1-3欄で接続する場合)のイ 光信号主端末回線(光局外スプリッタを含むものに限ります。)により1芯にて伝送を行う機能の(A) 保守の区別がタイプ1-1のもの
③光信号分岐端末回線接続料 (円/回線・月)	539	Ⅱの1-2の(2)の②加算料の2-1-1第2欄ウ欄又は第6欄イ欄に規定する機能に係る加算料のA 光信号分岐端末回線に係る加算料の(7) 当社の光屋内配線(主として一戸建ての建物に設置される形態により設置するものに限ります。)を利用するものA 保守の区別がタイプ1-1のもの
④回線管理運営費	51	2020年度適用網使用料算定根拠の 13. その他の機能の B. 回線管理機能の DSL回線管理機能(イ 端末回線伝送機能2-1-1-1第4欄ア(7)欄及びイ(7)欄に係るもの)及び光信号分岐端末回線管理機能
⑤ドライカッパと1ユーザあたりコストが同水準となる光主端末回線あたりの獲得ユーザ数 (ユーザ)	1.9	②÷((①+④)-(③+④))

(2) 割引率の算定

区分	2020年度	備考
①ドライカッパ接続料と比較した場合の光主端末回線の平均獲得ユーザあたりの超過コスト (円)	1,670	(1)の②×(1)の⑤÷2
②コスト総額 (円)	14,064	(1)の②×8
③割引率 (%)	11.9%	①÷②

Ⅲ. 投資等比率及び貯蔵品比率の算定

(1) 投資等比率の算定

(単位：百万円)

区分	首末平均残高
指定設備管理部門の電気通信事業固定資産	2,145,984 (A)
指定設備管理部門における投資等(収益の見込まれないもの) (※)	2,754 (B)
投資等比率 (B ÷ A)	0.0013 (C)

※ 投資等は、収益性が見込まれない出資金、保証金・負担金等である。

(2) 貯蔵品比率の算定

(単位：百万円)

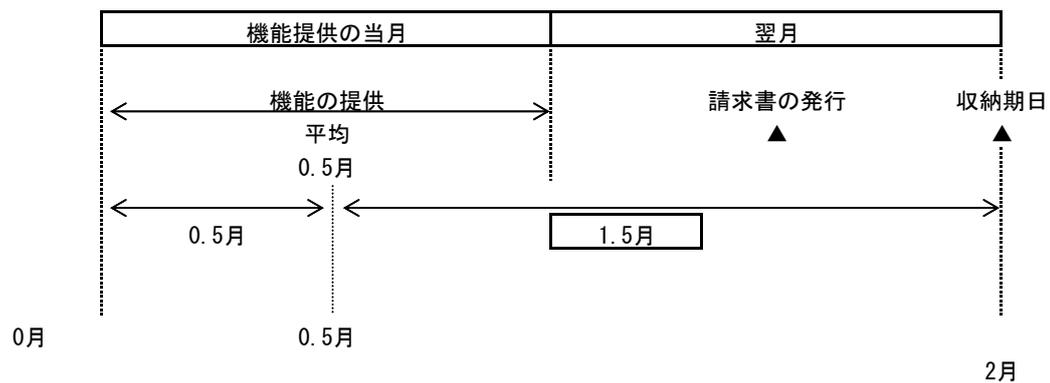
区分	首末平均残高
電気通信事業固定資産	2,474,420 (A)
貯蔵品 (※)	16,804 (B)
貯蔵品比率 (B ÷ A)	0.0068 (C)

※ 貯蔵品は、現用に供されるまでの間保管されている電気通信設備用品（新品）であり、金額は月末在庫額の年平均値である。

(注) なお繰延資産比率については、繰延資産が発生していないので無しとする。

IV. 接続料収納までの平均的な日数の算定

(1) 機能の提供と接続料の収納までの日程



(2) 機能の提供から当該機能に係る接続料の収納までの平均的な日数の算定

機能の提供から当該機能に係る接続料の収納までの平均的な日数

$$= \frac{1.5 \text{ ヵ月}}{12 \text{ ヵ月}} \times 365 \text{ 日} = \boxed{45.625 \text{ 日}}$$

(1) より

VI. 他人資本利率の算定

(1) 有利子負債に対する利率

有利子負債の額に対する他人資本費用の2018年度実績とした。

$$\text{有利子負債に対する利率} = \boxed{0.66\%}$$

(単位：%)

区分 \ 年度	2018
他人資本利率	0.66

(注)借入金の平均利率である。

(2) 有利子負債以外の負債の利率相当率

国債利回りの過去5年平均とした。

$$\text{有利子負債以外の負債の利率相当率} = \boxed{0.19\%}$$

(単位：%)

区分 \ 年度	2014	2015	2016	2017	2018	平均
他人資本利率	0.49	0.32	0.00	0.06	0.06	0.19

(注)国債(利付・10年物)の平均利回りである。

なお、2016年度については、年間の平均値がマイナスの値となるため、「0.00%」として見込んだ。

(3) 他人資本利率

$$\text{他人資本利率} = 0.66\% \times 0.659 + 0.19\% \times 0.341 = \boxed{0.50\%}$$

(有利子負債に対する利率×有利子負債比率+国債利回り×有利子負債以外の負債の比率)

VII. 自己資本利益率の算定

1. CAPM的手法による自己資本利益率

年度		(単位：%)			
		2016	2017	2018	平均(注4)
区分		3年平均			
①主要企業の自己資本利益率(注1)		8.66	9.56	9.49	—
β値の適用		○	○	○	—
②リスクフリーレート(注2)		0.00	0.06	0.06	—
①-②		8.66	9.50	9.43	—
選択される自己資本利益率	β = 0.6 (注3)	5.20	5.76	5.72	5.56

(注1) 主要企業の自己資本利益率はNEEDS(日本経済新聞社デジタル事業 情報サービスユニットの総合経済データバンク)の財務データより。抽出条件については、「日経経営指標」と同様に、全国4証券取引所(東京(マザーズを含まない)、名古屋、札幌、福岡)に今年度の9月2日現在で上場しており、7期連続で決算データの取得が可能な単体決算開示企業(金融業および外国企業を除く)の全業種平均値(単独指標)とした。ただし、2018年度は速報値である。

(注2) リスクフリーレートについては、指定設備全体の平均的な耐用年数に着目し、耐用年数が10年超であることから国債10年ものの利回りを使用した。なお、2016年度については、年間の平均値がマイナスの値となるため、「0.00%」として見込んだ。

(注3) β値については、昨年度と同とした。

(注4) 算定期間については、3年間とした。

2. 主要企業の過去5年間の自己資本利益率

年度		(単位：%)					
		2014	2015	2016	2017	2018	平均
区分							
主要企業の自己資本利益率		8.16	7.89	8.66	9.56	9.49	8.75

(注1) 主要企業の自己資本利益率はNEEDS(日本経済新聞社デジタル事業 情報サービスユニットの総合経済データバンク)の財務データより。抽出条件については、「日経経営指標」と同様に、全国4証券取引所(東京(マザーズを含まない)、名古屋、札幌、福岡)に今年度の9月2日現在で上場しており、7期連続で決算データの取得が可能な単体決算開示企業(金融業および外国企業を除く)の全業種平均値(単独指標)とした。ただし、2018年度は速報値である。

3. 料金算定に採用した自己資本利益率

上記1、2を勘案し、低い方の1のCAPM的手法による自己資本利益率を採用する。

自己資本利益率 = 5.56%

Ⅷ.利益対応税率の算定 (調整額算定時の原価算定に用いる2018年度・2019年度適用のもの)

利益対応税としては、事業税、地方法人特別税、法人税、道府県民税、市町村民税、地方法人税を見込んだ。

$$\text{利益対応税率} = \boxed{42.39\%}$$

(算定方法)

1. 税引前利益に対する率の算定

①税引前利益を y 、税額を x_n とする。

②事業税実効税率

事業税額を x_1 、地方法人特別税を x_2 とする。

$$(x_2 = x_1 \times 4.142)$$

$$x_1 = (y - (x_1 + x_2)) \times 0.007$$

$$= (y - (x_1 + x_1 \times 4.142)) \times 0.007$$

$$\Rightarrow x_1 = \frac{0.007}{1+0.036} \times y$$

$$= \underline{0.0068 y}$$

③地方法人特別税実効税率

地方法人特別税を x_2 とする。

$$x_2 = x_1 \times 4.142$$

$$= 0.0068 y \times 4.142$$

$$= \underline{0.0282 y}$$

④法人税実効税率

法人税額を x_3 とする。

$$x_3 = \text{事業税及び地方法人特別税引後利益} \times 0.232$$

$$= (y - (0.0068 y + 0.0282 y)) \times 0.232$$

$$= \underline{0.2239 y}$$

⑤道府県民税実効税率

道府県民税額を x_4 とする。

$$x_4 = \text{法人税額} \times 0.032$$

$$= 0.2239 y \times 0.032$$

$$= \underline{0.0072 y}$$

⑥市町村民税実効税率

市町村民税額を x_5 とする。

$$x_5 = \text{法人税額} \times 0.097$$

$$= 0.2239 y \times 0.097$$

$$= \underline{0.0217 y}$$

⑦地方法人税実効税率

地方法人税額を x_6 とする。

$$x_6 = \text{法人税額} \times 0.044$$

$$= 0.2239 y \times 0.044$$

$$= \underline{0.0099 y}$$

⑧税引前利益に対する利益対応税率

利益対応税額を x とする。

$$x = x_1 + x_2 + x_3 + x_4 + x_5 + x_6$$

$$= \underline{0.2977 y}$$

2. 税引後利益に対する率の算定

税引後利益を z 、税引前利益を y 、税額を x とする。

$$\text{利益対応税率} = \frac{x}{z} = \frac{0.2977 y}{(1-0.2977) y} = \frac{0.2977 y}{0.7023 y} = 0.4239$$

税引前利益 y

利益対応税	$x = 0.2977 y$
-------	----------------

税引後利益	$z = (1-0.2977) y$
-------	--------------------

VIII. 利益対応税率の算定 (2020年度～2022年度適用のもの)

利益対応税としては、事業税、特別法人事業税、法人税、道府県民税、市町村民税、地方法人税を見込んだ。

$$\text{利益対応税率} = \boxed{42.35\%}$$

(算定方法)

1. 税引前利益に対する率の算定

①税引前利益を y 、税額を x_n とする。

②事業税実効税率

事業税額を x_1 、特別法人事業税を x_2 とする。

$$(x_2 = x_1 \times 2.600)$$

$$x_1 = (y - (x_1 + x_2)) \times 0.010$$

$$= (y - (x_1 + x_1 \times 2.600)) \times 0.010$$

$$\Rightarrow x_1 = \frac{0.010}{1+0.036} \times y$$

$$= \underline{0.0097 y}$$

③特別法人事業税実効税率

特別法人事業税を x_2 とする。

$$x_2 = x_1 \times 2.600$$

$$= 0.0097 y \times 2.600$$

$$= \underline{0.0252 y}$$

④法人税実効税率

法人税額を x_3 とする。

$$x_3 = \text{事業税及び特別法人事業税引後利益} \times 0.232$$

$$= (y - (0.0097 y + 0.0252 y)) \times 0.232$$

$$= \underline{0.2239 y}$$

⑤道府県民税実効税率

道府県民税額を x_4 とする。

$$x_4 = \text{法人税額} \times 0.010$$

$$= 0.2239 y \times 0.010$$

$$= \underline{0.0022 y}$$

⑥市町村民税実効税率

市町村民税額を x_5 とする。

$$x_5 = \text{法人税額} \times 0.060$$

$$= 0.2239 y \times 0.060$$

$$= \underline{0.0134 y}$$

⑦地方法人税実効税率

地方法人税額を x_6 とする。

$$x_6 = \text{法人税額} \times 0.103$$

$$= 0.2239 y \times 0.103$$

$$= \underline{0.0231 y}$$

⑧税引前利益に対する利益対応税率

利益対応税額を x とする。

$$x = x_1 + x_2 + x_3 + x_4 + x_5 + x_6$$

$$= \underline{0.2975 y}$$

2. 税引後利益に対する率の算定

税引後利益を z 、税引前利益を y 、税額を x とする。

$$\text{利益対応税率} = \frac{x}{z} = \frac{0.2975 y}{(1-0.2975) y} = \frac{0.2975 y}{0.7025 y} = 0.4235$$

税引前利益 y

利益対応税

$$x = 0.2975 y$$

税引後利益

$$z = (1-0.2975) y$$

IX. 料金設定に使用した回線数

1. 端末回線数等

・加入者回線算定に使用した回線数

(単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼働回線数	b. 設備換算 係数 (注4)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼働回線数
加入者回線				
(1) 2線式・タイプ1-1 (注1)	105,153	1	1.00	105,153
(2) 2線式・タイプ1-2 (注2)	10,569,650	1	1.00	10,569,650
(3) 2線式・タイプ2 (注3)	254,112	1	1.03	261,735
(4) 4線式	11,849	2	1.03	24,409
(5) メタルサービス小計	10,940,764	-	-	10,960,947
(6) 1芯式・タイプ1-1 (注1)	17,176	1	1.00	17,176
(7) 1芯式・タイプ1-2 (注2)	2,576,123	1	1.00	2,576,123
(8) 1芯式・タイプ2 (注3)	568,489	1	1.03	585,544
(9) 2芯式・タイプ1-1 (注1)	0	2	1.00	0
(10) 2芯式・タイプ1-2 (注2)	6,945	2	1.00	13,890
(11) 2芯式・タイプ2 (注3)	2,799	2	1.03	5,766
(12) 4芯式	0	4	1.03	0
(13) 光サービス小計	3,171,532	-	-	3,198,499
(14) 計 ((5)+(13))	14,112,296	-	-	14,159,446
光サービス小計(保守換算係数をすべて1.00とした場合)	3,171,532	-	1.00	3,181,276

(再掲)施設設置負担金の適用のないサービス等の回線数

(15) メタルサービス・2線式	1,662,341
(16) (再)メタルサービス・2線式(帯域透過端末回線除き)	716,842
(17) 光サービス	3,166,060
(18) 計 ((15)+(17))	4,828,401

(再掲)メタルサービスの収容形態別回線数

(19) 局外RT収容メタル回線数	-	-	-	815,925
(20) メタル設備のみを用いる加入者回線数	-	-	-	10,145,022
(21) 計 ((19)+(20))	-	-	-	10,960,947

(再掲)メタルサービスの回線数内訳

(22) 帯域透過端末回線数	-	-	-	945,633
(23) 上記以外のメタル回線数	-	-	-	10,015,314
(24) 計 ((22)+(23))	-	-	-	10,960,947

・MDF、FTM算定に使用した回線数

(単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼働回線数	b. 設備換算 係数 (注6)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼働回線数
加入者回線				
(25) 2線式・タイプ1-1 (注1)	105,153	1	1.00	105,153
(26) 2線式・タイプ1-2 (注2)	10,569,650	1	1.00	10,569,650
(27) 2線式・タイプ2 (注3)	254,112	1	1.03	261,735
(28) 4線式	11,849	2	1.03	24,409
(29) 追加MDF・タイプ1-1 (注1)	0	1	1.00	0
(30) 追加MDF・タイプ1-2 (注2)	710,099	1	1.00	710,099
(31) メタルサービス小計	11,650,863	-	-	11,671,046
(32) 1芯式・タイプ1-1 (注1)	17,176	1	1.00	17,176
(33) 1芯式・タイプ1-2 (注2)	2,576,123	1	1.00	2,576,123
(34) 1芯式・タイプ2 (注3)	568,489	1	1.03	585,544
(35) 2芯式・タイプ1-1 (注1)	473	2	1.00	946
(36) 2芯式・タイプ1-2 (注2)	6,945	2	1.00	13,890
(37) 2芯式・タイプ2 (注3)	2,799	2	1.03	5,766
(38) 4芯式	0	4	1.03	0
(39) 光サービス小計	3,172,005	-	-	3,199,445
(40) 計 ((31)+(39))	14,822,868	-	-	14,870,491
(39) 光サービス小計(保守換算係数をすべて1.00とした場合)	3,172,005	-	1.00	3,182,222

(再掲)メタルサービスの収容形態別回線数

(41) 局外RT収容メタル回線数	-	-	-	815,925
(42) メタル設備のみを用いる加入者回線数	-	-	-	10,855,121
(43) 計 ((41)+(42))	-	-	-	11,671,046

(再掲)メタルサービスの回線数内訳

(44) 帯域透過端末回線数	-	-	-	945,633
(45) 追加MDF	-	-	-	710,099
(46) 上記以外のメタル回線数	-	-	-	10,015,314
(47) 計 ((44)+(45)+(46))	-	-	-	11,671,046

・OCU算定に使用した回線数

(単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼働回線数	b. 設備換算 係数 (注6)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼働回線数
OCU使用回線				
(48) メタル回線数・タイプ1-1 (注1)	0	1	1.00	0
(49) メタル回線数・タイプ1-2 (注2)	1,058,661	1	1.00	1,058,661
(50-1) (再)デジタル公衆電話(下記以外)・タイプ1-2 (注2)	30,422	1	1.00	30,422
(50-2) (再)デジタル公衆電話(特設公衆電話)・タイプ1-2 (注2)	0	1	1.00	0
(51) 光回線数・タイプ1-1 (注1)	0	1	1.00	0
(52) 光回線数・タイプ1-2 (注2)	7,418	1	1.00	7,418
(53) 計 ((48)+(50)+(51)+(52))	1,066,079	-	-	1,066,079

・回線管理運営機能算定に使用した回線数 (単位:回線)

区分	2018年度 稼動回線数
回線管理運営機能対応回線数	
(54) 電話等	9,588,757
(56) ラインシェアリング・相互接続回線	399,874
(57) ドライカッパ・相互接続回線	853,685
(58) 光ファイバ・相互接続回線	1,025,317
(59) 上記以外の回線数	9,398,601
(60) 計 ((54)+(56)+(57)+(58)+(59))	21,266,234
(61) (再) 相互接続回線 ((56)+(57)+(58))	2,278,876
(62) (再) 相互接続回線 (ラインシェアリング除き) ((57)+(58))	1,879,002

・DSL回線故障対応機能算定に使用した回線数 (単位:回線)

区分	2018年度 稼動回線数
故障対応回線数	
(63) メタル設備のみを用いる加入者回線数	10,125,459
(64) DSL回線故障対応機能契約数	300,861
(65) 計 ((63)+(64))	10,426,320

・公衆電話機能算定に使用した回線数 (単位:回線)

区分	2018年度 稼動回線数
公衆電話回線	
(66-1) アナログ公衆電話 (下記以外)	55,874
(66-2) アナログ公衆電話(特設公衆電話)	27,823
(67-1) デジタル公衆電話 (下記以外)	31,449
(67-2) デジタル公衆電話(特設公衆電話)	0
(68) 計 ((66-1)+(66-2)+(67-1)+(67-2))	115,146
回線数の増減に応じて当該設備に係る費用が増減するものに対応する回線数	
(69) アナログ回線数(加入電話・アナログ公衆電話)	8,636,797
(70) デジタル回線数(INS64・デジタル公衆電話・PHS基地局回線)	1,058,661
(71) 計 ((69)+(70))	9,695,458

・光信号伝送装置(PON)算定に使用した回線数 (単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼動回線数	b. 設備換算 係数 (注6)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼動回線数
光信号伝送装置 (PON)				
(92) 1Gbit/sタイプ ・タイプ1-1 (注1)	0	0	1.00	0
(93) 1Gbit/sタイプ ・タイプ1-2 (注2)	771,162	1	1.00	771,162
(94) 1Gbit/sタイプ ・タイプ2 (注3)	15,432	1	1.03	15,894
(95) 1Gbit/sタイプ 小計	786,593	-	-	787,056

・局外スプリッタ算定に使用した回線数

(単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼働回線数	b. 設備換算 係数 (注6)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼働回線数
局外スプリッタ				
(103) 局外スプリッタ (8分岐)・タイプ1-1 (注1)	1	1	1.00	1
(104) 局外スプリッタ (8分岐)・タイプ1-2 (注2)	1,955,869	1	1.00	1,955,869
(105) 局外スプリッタ (8分岐)・タイプ2 (注3)	57,373	1	1.03	59,094
(106) 局外スプリッタ (8分岐) 小計	2,013,243	-	-	2,014,964

・光信号電気信号変換機能(メディアコンバータ)算定に使用した回線数

(単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼働回線数	b. 設備換算 係数 (注6)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼働回線数
光信号電気信号変換機能(メディアコンバータ)				
(107) メディアコンバータ (1Gbit/sタイプ)・タイプ1-1 (注1)	0	1	1.00	0
(108) メディアコンバータ (1Gbit/sタイプ)・タイプ1-2 (注2)	108,241	1	1.00	108,241
(109) メディアコンバータ (1Gbit/sタイプ)・タイプ2 (注3)	77	1	1.03	79
(110) メディアコンバータ (1Gbit/sタイプ) 小計	108,317	-	-	108,320
(115) メディアコンバータ (非集線型)・タイプ1-1 (注1)	0	1	1.00	0
(116) メディアコンバータ (非集線型)・タイプ1-2 (注2)	374	1	1.00	374
(117) メディアコンバータ (非集線型)・タイプ2 (注3)	0	1	1.03	0
(118) メディアコンバータ (非集線型) 小計	374	-	-	374

・光信号多重分離機能(局内スプリッタ)算定に使用した回線数

(単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼働回線数	b. 設備換算 係数 (注6)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼働回線数
光信号多重分離機能(局内スプリッタ)				
(119) 局内スプリッタ (4分岐)・タイプ1-1 (注1)	0	1	1.00	0
(120) 局内スプリッタ (4分岐)・タイプ1-2 (注2)	569,127	1	1.00	569,127
(121) 局内スプリッタ (4分岐)・タイプ2 (注3)	14,843	1	1.03	15,288
(122) 局内スプリッタ (4分岐) 小計	583,969	-	-	584,415
(123) 局内スプリッタ (8分岐)・タイプ1-1 (注1)	0	1	1.00	0
(124) 局内スプリッタ (8分岐)・タイプ1-2 (注2)	1,525	1	1.00	1,525
(125) 局内スプリッタ (8分岐)・タイプ2 (注3)	239	1	1.03	246
(126) 局内スプリッタ (8分岐) 小計	1,763	-	-	1,771

・特別収容局ルータ接続ルーティング伝送機能算定に使用した回線数

(単位:ポート)

区分	a. 2018年度 稼働回線数
特別収容局ルータ接続ルーティング伝送機能	
(128) ATM/ファーストよりの符号伝送が可能なもの	4,367
(129) ISDN一次群ユーザ網/ファーストよりの符号伝送が可能なもの	6,913
(130) 計 (128)+(129)	11,280

・特別帯域透過端末回線数

(単位:回線)

区分	a. 2018年度 稼働回線数	b. 設備換算 係数 (注4)	c. 保守換算 係数 (注5)	d=a×b×c 換算後 稼働回線数
(131) 特別帯域透過端末回線・タイプ1-1 (注1)	0	1.00	1.00	0

(注)1 タイプ1-1:保守の区別が、平日・昼間帯の保守メニューのもの。

2 タイプ1-2:保守の区別が、全日・昼間帯の保守メニューのもの。

3 タイプ2:保守の区別が、全日・全時間帯の保守メニューのもの。

4 使用するケーブル対数・芯数をもとに設備換算係数を設定した。

5 保守換算係数はXの保守換算係数の3.③より。

6 使用する端子数をもとに設備換算係数を設定した。

X. 料金設定に使用した保守換算係数

1. II-6 通信路設定伝送機能に適用するもの

①通信路設定伝送機能における総平均故障修理時間と区分毎の平均故障修理時間の比率

区分	比率
a. タイプ1-1 (平日・昼間帯)	0.375
b. タイプ1-2 (全日・昼間帯)	0.523
c. タイプ2 (全日・全時間帯)	1.000
d. 平均	1.000

②通信路設定伝送機能コストの内訳 (単位: %)

区分	比率
a. 故障修理関連コストの割合	9.7
b. その他のコストの割合	90.3
c. 計	100.0

③保守換算係数の設定

区分	保守換算係数	備考
タイプ1-2 (全日・昼間帯)	1.02	$(2a \times 1b + 2b) / (2a \times 1a + 2b)$
タイプ2 (全日・全時間帯)	1.06	$(2a \times 1c + 2b) / (2a \times 1a + 2b)$

2. 網改造料の算定式に準拠して算定するものに適用するもの

①端末回線伝送機能等における総平均故障修理時間と区分毎の平均故障修理時間の比率

区分	比率
a. タイプ1-1 (平日・昼間帯)	0.943
b. タイプ1-2 (全日・昼間帯)	0.955
c. タイプ2 (全日・全時間帯)	1.367
d. 平均	1.000

②端末回線伝送機能等コストの内訳 (単位: %)

区分	比率
a. 故障修理関連コストの割合	7.7
b. その他のコストの割合	92.3
c. 計	100.0

③保守換算係数の設定

区分	保守換算係数	備考
タイプ1-1 (平日・昼間帯)	1.00	$(2a \times 1a + 2b) / 2c$
タイプ1-2 (全日・昼間帯)	1.00	$(2a \times 1b + 2b) / 2c$
タイプ2 (全日・全時間帯)	1.03	$(2a \times 1c + 2b) / 2c$

3. 1, 2以外に適用するもの

①端末回線伝送機能等における総平均故障修理時間と区分毎の平均故障修理時間の比率

区分	比率
a. タイプ1-1 (平日・昼間帯)	0.943
b. タイプ1-2 (全日・昼間帯)	0.955
c. タイプ2 (全日・全時間帯)	1.367
d. 平均	1.000

②端末回線伝送機能等コストの内訳 (単位: %)

区分	比率
a. 故障修理関連コストの割合	7.7
b. その他のコストの割合	92.3
c. 計	100.0

③保守換算係数の設定

区分	保守換算係数	備考
タイプ1-2 (全日・昼間帯)	1.00	$(2a \times 1b + 2b) / (2a \times 1a + 2b)$
タイプ2 (全日・全時間帯)	1.03	$(2a \times 1c + 2b) / (2a \times 1a + 2b)$

X I .料金設定に使用した貸倒率

(単位:百万円)

区分	2018	備考
①接続料の貸倒額	0	参考1.設備区分別の費用明細表より
②接続料	127,020	2018年度実績 (接続会計報告書 様式第1 第一種指定設備管理部門の受取網使用料、接続装置使用料収入、網改造料収入の合計)
貸倒率	0.00000%	①÷②

(別紙1)

加入者回線・主配線盤の費用明細表

(単位:百万円)

費用の項目	主な配賦基準	メタル加入者回線	局外RTIに収容されている加入者回線(※)	メタル設備のみを用いる加入者回線	(再掲)試験受付	メタル主配線盤	局外RTIに収容されている加入者回線に係る主配線盤(※)	メタル設備のみを用いる加入者回線に係る主配線盤
営業費	取得資産額比	0	0	0	0	0	0	0
(再)貸倒損失	-	0	0	0	0	0	0	0
運用費	-	0	0	0	0	0	0	0
施設保全費	・線路設備の保守に直接係わるもの:芯線長比 ・上記以外のもの:上記支出額比	83,753	3,133	80,621	3,000	2,006	4	2,002
共通費	・施設保全費支出額比	4,000	164	3,835	105	716	2	714
管理費	・施設保全費、共通費支出額比	4,583	211	4,372	131	260	1	258
試験研究費	取得資産額比	1,955	125	1,830	1	15	2	13
通信設備使用料	取得資産額比	14	1	13	2	0	0	0
租税公課	・正味資産額比	18,921	1,291	17,630	6	427	2	425
減価償却費	・線路設備に係わるもの:個別把握し、直接賦課 ・上記以外のもの:正味資産額比	24,163	1,712	22,451	29	1,083	13	1,069
固定資産除却費	・線路設備に係わるもの:個別把握し、直接賦課 ・上記以外のもの:正味資産額比	8,578	426	8,152	13	212	1	212
(再)除却損	・線路設備に係わるもの:個別把握し、直接賦課 ・上記以外のもの:正味資産額比	1,356	82	1,274	0	48	0	48
合計		145,967	7,063	138,904	3,286	4,718	25	4,694

(※) 収容局から局外RTIまでの光信号端末伝送路を含む。

(別紙2)

加入者回線・主配線盤の固定資産明細表

(単位:百万円)

資産の項目	主な配賦基準	メタル加入者回線	局外RTIに收容されている加入者回線(※)	メタル設備のみを用いる加入者回線	メタル主配線盤	局外RTIに收容されている加入者回線に係る主配線盤(※)	メタル設備のみを用いる加入者回線に係る主配線盤			
								(再掲)試験受付		
機械設備	公衆電話機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0	
		減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0	
		正味価額	0	0	0	0	0	0	0	
	市内電話機械設備	取得価額	724	23	700	700	45,394	506	44,887	
		減価償却累計額	598	19	579	579	45,219	463	44,756	
		正味価額	126	4	122	122	175	43	132	
	市外電話機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0	
		減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0	
		正味価額	0	0	0	0	0	0	0	
	電信機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0	
		減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0	
		正味価額	0	0	0	0	0	0	0	
	電報機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0	
		減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0	
		正味価額	0	0	0	0	0	0	0	
	DDX機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0	
		減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0	
		正味価額	0	0	0	0	0	0	0	
画像機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	0	0	0	0	0	0	0		
OCN機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	0	0	0	0	0	0	0		
伝送機械設備	取得価額	1,486	0	1,486	0	0	0	0		
	減価償却累計額	1,242	0	1,242	0	0	0	0		
	正味価額	244	0	244	0	0	0	0		
無線機械設備	取得価額	2,796	0	2,796	0	0	0	0		
	減価償却累計額	2,551	0	2,551	0	0	0	0		
	正味価額	245	0	245	0	0	0	0		
電力設備	取得価額	3,847	247	3,600	468	35	8	27		
	減価償却累計額	3,273	210	3,063	398	30	7	23		
	正味価額	574	37	537	70	5	1	4		
電話番号案内設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	0	0	0	0	0	0	0		
総合監視システム	取得価額	441	33	408	0	1,036	0	1,036		
	減価償却累計額	149	11	138	0	347	0	347		
	正味価額	292	22	270	0	689	0	689		
空中線設備	取得価額	220	0	220	0	0	0	0		
	減価償却累計額	149	0	149	0	0	0	0		
	正味価額	71	0	71	0	0	0	0		
通信衛星設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	0	0	0	0	0	0	0		
端末設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	0	0	0	0	0	0	0		
線路設備	市内線路設備	取得価額	2,590,065	110,773	2,479,292	0	0	0		
		減価償却累計額	2,192,748	85,221	2,107,527	0	0	0		
		正味価額	397,317	25,552	371,766	0	0	0		
市外線路設備	取得価額	0	0	0	0	0	0	0		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	0	0	0	0	0	0	0		
土木設備	取得価額	1,223,715	92,752	1,130,963	0	0	0	0		
	減価償却累計額	1,008,695	76,453	932,242	0	0	0	0		
	正味価額	215,021	16,299	198,722	0	0	0	0		
海底線設備	取得価額	4,299	53	4,246	0	0	0	0		
	減価償却累計額	4,071	39	4,033	0	0	0	0		
	正味価額	228	14	214	0	0	0	0		
建物	取得価額	78,883	3,310	75,574	24	67,413	199	67,215		
	減価償却累計額	60,900	2,557	58,343	19	52,490	155	52,335		
	正味価額	17,983	753	17,230	6	14,923	44	14,880		
構築物	取得価額	6,801	286	6,515	2	5,720	17	5,703		
	減価償却累計額	5,928	250	5,678	2	4,986	15	4,971		
	正味価額	873	37	837	0	734	2	732		
機械及び装置	取得価額	1,797	80	1,717	1	42	0	42		
	減価償却累計額	1,457	63	1,393	0	36	0	36		
	正味価額	341	17	324	0	5	0	5		
車両及び船舶	取得価額	360	12	348	0	4	0	4		
	減価償却累計額	266	9	257	0	3	0	3		
	正味価額	94	3	91	0	1	0	1		
工具、器具及び備品	取得価額	12,951	565	12,386	4	397	5	392		
	減価償却累計額	10,024	431	9,593	3	305	3	301		
	正味価額	2,927	134	2,792	1	92	2	90		
リース資産	取得価額	60	2	58	0	1	0	1		
	減価償却累計額	25	1	24	0	0	0	0		
	正味価額	35	1	34	0	0	0	0		
土地	取得価額	10,378	434	9,944	3	7,207	21	7,186		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	10,378	434	9,944	3	7,207	21	7,186		
建設仮勘定	取得価額	8,083	545	7,539	2	11	1	10		
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	0		
	正味価額	8,083	545	7,539	2	11	1	10		
無形固定資産	取得価額	90,877	5,673	85,204	27	1,338	9	1,329		
	減価償却累計額	77,887	4,869	73,018	24	1,136	7	1,129		
	正味価額	12,990	804	12,186	4	201	1	200		
合計	取得価額	4,037,784	214,787	3,822,997	1,233	128,596	765	127,831		
	減価償却累計額	3,369,963	170,133	3,199,830	1,025	104,552	650	103,902		
	正味価額	667,821	44,654	623,167	208	24,044	115	23,929		

(※) 収容局から局外RTIまでの光信号端末伝送路を含む。

(別紙3)

メタル設備のみを用いる加入者回線の費用明細表

(単位:百万円)

費用の項目	主な配賦基準	メタル 回線 設備 のみを用 いる加	上部区間		下部区間	
				(再掲)土木設 備		(再掲)特別帯 域透過端末回 線に係るもの (※)
営業費	-	0	0	0	0	0.000
(再)貸倒損失	-	0	0	0	0	0.000
運用費	-	0	0	0	0	0.000
施設保全費	・線路設備の故障修理に係るもの:故障修理件数比 ・線路設備(電柱・鉄塔)の保守に直接係るもの:個別把握し、直接賦課 ・線路設備(電柱・鉄塔以外)の保守に直接係るもの:芯線長比 ・地中設備の保守に直接係るもの:個別把握し、直接賦課 ・上記以外のもの:上記支出額比	80,621	23,526	5,142	57,095	0.000
共通費	・施設保全費支出額比	3,835	1,119	245	2,716	0.000
管理費	・施設保全費、共通費支出額比	4,372	1,276	279	3,096	0.000
試験研究費	・取得資産額比	1,830	489	261	1,341	0.000
通信設備使用料	・取得資産額比	13	0	0	12	0.000
租税公課	・正味資産額比	17,630	8,283	6,040	9,347	0.000
減価償却費	・線路設備に係るもの:個別把握し、直接賦課 ・地中設備に係るもの:個別把握し、直接賦課 ・上記以外のもの:正味資産額比	22,451	9,949	7,255	12,502	0.000
固定資産除却費	・線路設備に係るもの:個別把握し、直接賦課 ・地中設備に係るもの:個別把握し、直接賦課 ・上記以外のもの:正味資産額比	8,152	3,219	2,347	4,933	0.000
(再)除却損	・線路設備に係るもの:個別把握し、直接賦課 ・地中設備に係るもの:個別把握し、直接賦課 ・上記以外のもの:正味資産額比	1,274	366	267	909	0.000
合計		138,904	47,861	21,569	91,043	0.000

(※) 特別帯域透過端末回線に係るものについては、回線数比にて把握。

(別紙4)

メタル設備のみを用いる加入者回線の固定資産明細表

(単位:百万円)

資産の項目		主な配賦基準	メタル設備のみを用いる加入者回線	上部区間		下部区間	
					(再掲)土木設備		(再掲)特別帯域透過端末回線に係るもの(※)
機械設備	公衆電話機械設備	取得価額	0	0	0	0	0.000
		減価償却累計額	0	0	0	0	0.000
		正味価額	0	0	0	0	0.000
	市内電話機械設備	取得価額	700	339	181	361	0.000
		減価償却累計額	579	280	150	298	0.000
		正味価額	122	59	32	63	0.000
	市外電話機械設備	取得価額	0	0	0	0	0.000
		減価償却累計額	0	0	0	0	0.000
		正味価額	0	0	0	0	0.000
	電信機械設備	取得価額	0	0	0	0	0.000
		減価償却累計額	0	0	0	0	0.000
		正味価額	0	0	0	0	0.000
	電報機械設備	取得価額	0	0	0	0	0.000
		減価償却累計額	0	0	0	0	0.000
		正味価額	0	0	0	0	0.000
	DDX機械設備	取得価額	0	0	0	0	0.000
		減価償却累計額	0	0	0	0	0.000
		正味価額	0	0	0	0	0.000
	画像機械設備	取得価額	0	0	0	0	0.000
		減価償却累計額	0	0	0	0	0.000
正味価額		0	0	0	0	0.000	
OCN機械設備	取得価額	0	0	0	0	0.000	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0.000	
	正味価額	0	0	0	0	0.000	
伝送機械設備	取得価額	1,486	0	0	1,486	0.000	
	減価償却累計額	1,242	0	0	1,242	0.000	
	正味価額	244	0	0	244	0.000	
無線機械設備	取得価額	2,796	0	0	2,796	0.000	
	減価償却累計額	2,551	0	0	2,551	0.000	
	正味価額	245	0	0	245	0.000	
電力設備	取得価額	3,600	144	77	3,456	0.000	
	減価償却累計額	3,063	122	65	2,941	0.000	
	正味価額	537	21	11	516	0.000	
電話番号案内設備	取得価額	0	0	0	0	0.000	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0.000	
	正味価額	0	0	0	0	0.000	
総合監視システム	取得価額	408	403	215	5	0.000	
	減価償却累計額	138	136	73	2	0.000	
	正味価額	270	266	142	3	0.000	
空中線設備	取得価額	220	0	0	220	0.000	
	減価償却累計額	149	0	0	149	0.000	
	正味価額	71	0	0	71	0.000	
通信衛星設備	取得価額	0	0	0	0	0.000	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0.000	
	正味価額	0	0	0	0	0.000	
端末設備	取得価額	0	0	0	0	0.000	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0.000	
	正味価額	0	0	0	0	0.000	
線路設備	市内線路設備	取得価額	2,479,292	983,203	0	1,496,089	0.000
		減価償却累計額	2,107,527	917,040	0	1,190,487	0.000
		正味価額	371,766	66,163	0	305,603	0.000
市外線路設備	取得価額	0	0	0	0	0.000	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0.000	
	正味価額	0	0	0	0	0.000	
土木設備	取得価額	1,130,963	1,130,963	1,130,963	0	0.000	
	減価償却累計額	932,242	932,242	932,242	0	0.000	
	正味価額	198,722	198,722	198,722	0	0.000	
海底線設備	取得価額	4,246	4,246	0	0	0.000	
	減価償却累計額	4,033	4,033	0	0	0.000	
	正味価額	214	214	0	0	0.000	
建物	取得価額	75,574	32,826	17,525	42,748	0.000	
	減価償却累計額	58,343	25,279	13,496	33,064	0.000	
	正味価額	17,230	7,547	4,029	9,684	0.000	
構築物	取得価額	6,515	2,836	1,514	3,679	0.000	
	減価償却累計額	5,678	2,472	1,320	3,206	0.000	
	正味価額	837	364	195	472	0.000	
機械及び装置	取得価額	1,717	960	512	757	0.000	
	減価償却累計額	1,393	772	412	621	0.000	
	正味価額	324	187	100	136	0.000	
車両及び船舶	取得価額	348	224	120	124	0.000	
	減価償却累計額	257	165	88	92	0.000	
	正味価額	91	58	31	32	0.000	
工具、器具及び備品	取得価額	12,386	6,248	3,335	6,138	0.000	
	減価償却累計額	9,593	4,910	2,622	4,683	0.000	
	正味価額	2,792	1,337	714	1,455	0.000	
リース資産	取得価額	58	37	20	21	0.000	
	減価償却累計額	24	16	8	9	0.000	
	正味価額	34	22	12	12	0.000	
土地	取得価額	9,944	4,505	2,405	5,439	0.000	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0.000	
	正味価額	9,944	4,505	2,405	5,439	0.000	
建設仮勘定	取得価額	7,539	3,553	1,897	3,985	0.000	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0.000	
	正味価額	7,539	3,553	1,897	3,985	0.000	
無形固定資産	取得価額	85,204	68,769	36,714	16,435	0.000	
	減価償却累計額	73,018	59,021	31,510	13,997	0.000	
	正味価額	12,186	9,747	5,204	2,439	0.000	
合計	取得価額	3,822,997	2,239,255	1,195,478	1,583,742	0.000	
	減価償却累計額	3,199,830	1,946,489	981,985	1,253,341	0.000	
	正味価額	623,167	292,767	213,493	330,400	0.000	

(※) 特別帯域透過端末回線に係るものについては、回線数比にて把握。

(参考3)

39
設備区別の費用明細表(端末系伝送路の内訳)

(2018年度接続会計をもとに算定)

(単位:百万円)

設備区分等 費用の項目	指定設備管理部門				
	(端末系伝送路 の伝送に係るもの)	メタル加入者回線	OCU	その他	回線管理運営
営業費	15,630	0	0	0	15,630
(再)貸倒損失	0	0	0	0	0
運用費	0	0	0	0	0
施設保全費	85,682	83,753	426	151	1,352
共通費	4,686	4,000	71	10	605
管理費	5,934	4,583	52	10	1,289
試験研究費	2,032	1,955	67	10	0
通信設備使用料	26	14	11	2	0
租税公課	19,088	18,921	47	6	114
減価償却費	25,908	24,163	348	23	1,375
固定資産除却費	8,656	8,578	43	5	29
(再)除却損	1,381	1,356	5	1	19
合計	167,643	145,967	1,065	217	20,394

設備区分別固定資産明細表(端末系伝送路の内訳)
(2018年度接続会計をもとに算定)

(単位:百万円)

設備区分等	費用の項目	指定設備管理部門					
		(端末系伝送路の伝送に係るもの)	メタル加入者回線	O C U	その他	回線管理運営	
機械設備	公衆電話機械設備	取得価額	0	0	0	0	0
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0
	正味価額	0	0	0	0	0	0
	市内電話機械設備	取得価額	13,388	724	12,665	0	0
	減価償却累計額	12,690	598	12,093	0	0	0
	正味価額	698	126	572	0	0	0
	市外電話機械設備	取得価額	0	0	0	0	0
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0
	正味価額	0	0	0	0	0	0
	電信機械設備	取得価額	0	0	0	0	0
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0
	正味価額	0	0	0	0	0	0
	電報機械設備	取得価額	0	0	0	0	0
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0
	正味価額	0	0	0	0	0	0
	DDX機械設備	取得価額	0	0	0	0	0
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0
	正味価額	0	0	0	0	0	0
	画像機械設備	取得価額	0	0	0	0	0
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	0
正味価額	0	0	0	0	0	0	
OCN機械設備	取得価額	0	0	0	0	0	
減価償却累計額	0	0	0	0	0	0	
正味価額	0	0	0	0	0	0	
伝送機械設備	取得価額	5,177	1,486	1,736	1,955	0	
減価償却累計額	4,821	1,242	1,642	1,936	0		
正味価額	356	244	94	18	0		
無線機械設備	取得価額	3,078	2,796	0	282	0	
減価償却累計額	2,833	2,551	0	281	0		
正味価額	246	245	0	1	0		
電力設備	取得価額	7,126	3,847	2,956	322	0	
減価償却累計額	6,066	3,273	2,518	274	0		
正味価額	1,060	574	438	48	0		
電話番号案内設備	取得価額	0	0	0	0	0	
減価償却累計額	0	0	0	0	0		
正味価額	0	0	0	0	0		
総合監視システム	取得価額	482	441	39	2	0	
減価償却累計額	163	149	13	1	0		
正味価額	319	292	26	1	0		
空中線設備	取得価額	220	220	0	0	0	
減価償却累計額	149	149	0	0	0		
正味価額	71	71	0	0	0		
通信衛星設備	取得価額	0	0	0	0	0	
減価償却累計額	0	0	0	0	0		
正味価額	0	0	0	0	0		
端末設備	取得価額	0	0	0	0	0	
減価償却累計額	0	0	0	0	0		
正味価額	0	0	0	0	0		
線路設備	市内線路設備	取得価額	2,590,065	2,590,065	0	0	0
	減価償却累計額	2,192,748	2,192,748	0	0	0	
正味価額	397,317	397,317	0	0	0		
市外線路設備	取得価額	0	0	0	0	0	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	
正味価額	0	0	0	0	0		
土木設備	取得価額	1,223,715	1,223,715	0	0	0	
	減価償却累計額	1,008,695	1,008,695	0	0	0	
正味価額	215,021	215,021	0	0	0		
海底線設備	取得価額	4,299	4,299	0	0	0	
	減価償却累計額	4,071	4,071	0	0	0	
正味価額	228	228	0	0	0		
建物	取得価額	89,757	78,883	5,581	545	4,748	
	減価償却累計額	69,262	60,900	4,355	426	3,580	
正味価額	20,496	17,983	1,226	119	1,168		
構築物	取得価額	7,723	6,801	455	48	419	
	減価償却累計額	6,731	5,928	397	42	365	
正味価額	992	873	58	6	54		
機械及び装置	取得価額	2,045	1,797	14	3	231	
	減価償却累計額	1,687	1,457	12	2	216	
正味価額	358	341	2	0	15		
車両及び船舶	取得価額	370	360	2	0	8	
	減価償却累計額	273	266	2	0	6	
正味価額	97	94	1	0	2		
工具、器具及び備品	取得価額	17,477	12,951	209	31	4,287	
	減価償却累計額	13,464	10,024	151	23	3,266	
正味価額	4,014	2,927	58	8	1,021		
リース資産	取得価額	63	60	0	0	2	
	減価償却累計額	26	25	0	0	1	
正味価額	36	35	0	0	1		
土地	取得価額	11,936	10,378	587	64	907	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	
正味価額	11,936	10,378	587	64	907		
建設仮勘定	取得価額	8,101	8,083	16	2	0	
	減価償却累計額	0	0	0	0	0	
正味価額	8,101	8,083	16	2	0		
無形固定資産	取得価額	120,536	90,877	924	87	28,648	
	減価償却累計額	103,159	77,887	840	74	24,357	
正味価額	17,377	12,990	84	13	4,291		
合計	取得価額	4,105,560	4,037,784	25,186	3,340	39,250	
	減価償却累計額	3,426,838	3,369,963	22,024	3,061	31,791	
正味価額	678,721	667,821	3,162	279	7,460		

(別添1)

光信号端末回線伝送機能予測原価総括表

1. 料金単位 光信号端末回線伝送機能(加入者回線)
2. 原価算定期間 2020年4月～2022年3月(3年)とする

3. 算定方法 料金算定期間における自己資本利益率は5.56%とし、2019年度における光ファイバの耐用年数の見直し(架空ケーブル:15年→20年、地下ケーブル:21年→28年)等の影響を織り込んだ。□(再)フレキシブルファイバ除きは左欄に(参考2)の②を乗じて算定。

(単位:百万円)

区分	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの				
						2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1. 設備管理運営費	67,643	52,669	50,510	49,181	47,587	66,581	51,795	49,646	48,306	46,707
2. 他人資本費用	1,911	1,984	2,080	2,112	2,138	1,881	1,951	2,044	2,074	2,098
3. 自己資本費用	26,617	27,633	28,959	29,407	29,771	26,199	27,175	28,463	28,884	29,220
4. 利益対芯税	11,388	11,823	12,378	12,570	12,725	11,209	11,627	12,166	12,346	12,490
5. 原価(1+2+3+4)	107,559	94,109	93,927	93,270	92,221	105,870	92,548	92,319	91,610	90,515
レートベース	861,010	893,885	936,761	951,262	963,029	847,492	879,047	920,743	934,331	945,213
有利子負債以外の負債の額	130,360	135,338	141,829	144,025	145,806	128,314	133,091	139,404	141,461	143,109
6. 加算料相当コスト	6,459	5,705	5,945	6,208	6,460	6,357	5,610	5,842	6,096	6,340
7. 加算料相当コスト控除後原価	101,100	88,404	87,982	87,062	85,761	99,513	86,938	86,477	85,514	84,175
芯線数(千芯)	3,181	3,248	3,383	3,530	3,671	3,131	3,194	3,325	3,467	3,603
料金(円/芯・月)	2,649	2,268	2,167	2,055	1,947	2,649	2,268	2,167	2,055	1,947

(参考1)

加算料相当コストの算定

(1) 接続料の算定に使用した稼働芯線数

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの				
						2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
①負担金なしサービス	3,166	3,234	3,370	3,519	3,662	3,116	3,180	3,312	3,456	3,594
②専用線等	108	114	115	118	121	108	114	115	118	121
③フレッツ光	2,405	2,392	2,425	2,475	2,522	2,405	2,392	2,425	2,475	2,522
④ダークファイバ(他事業者利用分)	653	728	830	926	1,019	603	674	772	863	951
⑤負担金ありサービス	15	14	13	11	9	15	14	13	11	9
⑥計	3,181	3,248	3,383	3,530	3,671	3,131	3,194	3,325	3,467	3,603

(単位:千芯)

(2) 加算料相当コストの算定

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(単位:百万円)				
						2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
⑦加算料コスト(①×各年の加算料×12ヶ月)	6,459	5,705	5,945	6,208	6,460	6,357	5,610	5,842	6,096	6,340

I. 設備管理運営費 <光信号端末回線伝送機能(加入者回線)>

1. 個別影響考慮前の設備管理運営費の算定

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	算定方法
営業費	0	0	0	0	0	-
施設保全費	22,104	17,673	16,582	15,777	14,886	<故障修理・工事施工> 前年度値×取得固定資産伸び率 <電柱・土木> 前年度値×契約者数変動率の伸び率 <故障受付・ソフトウェア> 前年度値×取得固定資産伸び率 <上記以外> 前年度値×上記支出額変動率の伸び率
共通費	1,695	1,358	1,276	1,216	1,149	前年度値×施設保全費変動率の伸び率
管理費	2,464	1,982	1,862	1,773	1,676	前年度値×施設保全費変動率の伸び率
試験研究費	2,674	2,550	2,343	2,213	2,061	前年度値×当年度取得固定資産伸び率
通信設備使用料	7	6	6	6	5	前年度値×取得固定資産伸び率
租税公課	11,299	10,235	9,951	9,789	9,559	前年度値×正味固定資産伸び率
減価償却費	24,116	16,312	16,055	16,057	15,999	光ケーブルは個別に算定。その他は前年度値×設備別正味固定資産伸び率
固定資産除却費	3,284	2,553	2,435	2,350	2,252	光ケーブルは個別に算定。その他は前年度値×設備別正味固定資産伸び率
(再)除却損	728	671	643	623	599	光ケーブルは個別に算定。その他は前年度値×設備別正味固定資産伸び率
合計	67,643	52,669	50,510	49,181	47,587	

(単位:百万円)

Ⅱ. 固定資産 <光信号端末回線伝送機能(加入者回線)>

区分		1. 個別影響考慮前の固定資産価額の算定					算定方法	
		2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
線路設備	光ケーブル	1,493,880	1,530,761	1,579,922	1,604,835	1,628,801	前年度値＋当年度取得固定資産－除却額	
	正味固定資産	404,232	418,410	441,929	437,564	430,984	前年度値＋当年度取得固定資産－減価償却費(当年度取得資産分は半移動)－除却損	
	電柱	416,368	435,991	455,470	474,608	493,280	前年度値×契約者数変動率	
	正味固定資産	197,959	207,289	216,550	225,649	234,526	前年度値×契約者数変動率	
土木	その他	28,005	28,380	28,823	29,249	29,651	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	正味固定資産	5,539	5,614	5,702	5,787	5,867	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	取得固定資産	1,115,777	1,168,363	1,220,561	1,271,845	1,321,881	前年度値×契約者数変動率	
	正味固定資産	198,447	207,799	217,083	226,204	235,103	前年度値×契約者数変動率	
建物	取得固定資産	53,471	54,171	55,004	55,811	56,572	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	正味固定資産	12,054	12,212	12,399	12,580	12,751	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	取得固定資産	4,663	4,723	4,796	4,867	4,933	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
構築物	正味固定資産	599	607	617	626	635	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	取得固定資産	39,807	39,850	40,119	40,480	40,817	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	正味固定資産	10,089	10,101	10,170	10,262	10,348	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
無形固定資産	取得固定資産	32,068	32,458	32,935	33,404	33,845	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	正味固定資産	21,267	21,516	21,826	22,132	22,421	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味	
	取得固定資産	3,184,039	3,294,697	3,417,630	3,515,099	3,609,780		
合計	正味固定資産	850,186	883,548	926,276	940,804	952,635		
	取得固定資産							

(単位:百万円)

Ⅲ. 需要 <光信号端末回線伝送機能(加入者回線)>

(単位:千芯)

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの				
						2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
光サービス芯線数	3,181	3,248	3,383	3,530	3,671	3,131	3,194	3,325	3,467	3,603
フレツ光(光コラボレーションモデルを含む)	2,405	2,392	2,425	2,476	2,522	2,405	2,392	2,425	2,476	2,522
ダークファイバ	653	728	830	926	1,019	603	674	772	863	951
シングルスター	463	488	523	561	605	413	434	465	498	537
シェアドアクセス	190	240	307	365	414	190	240	307	365	414
専用線等	123	128	128	128	130	123	128	128	128	130

- ・フレツ光については、下表の契約数に基づき
 ファミリータイプ：8ユーザまでごとに1芯を使用
 マンションタイプ：ミニ…1種(最大8ユーザ)あたり1芯を使用
 ミニ以外…光配線方式は32ユーザ、VDSL方式は16ユーザまでごとに1芯を使用
- ・ビジネスタイプ：1ユーザで1芯を使用
- ・ダークファイバについては、
 シングルスター方式：直近3年間(2016～2018年度)の平均純増数および5G基地局回線申込計画等を加味して算定
 シェアドアクセス方式：直近3年間(2016～2018年度)の平均純増数および2019年度の各事業者の申込計画を加味して算定
- ・専用線等については、直近2年間(2017～2018年度)の平均純増率等を基に算定

(単位:万契約)

区分	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
純増数	16	20	20	20	20

(参考2) 加入者回線の算定に用いる2018年度から2022年度までの稼働芯線数の内訳

(単位:千芯)

区 分	構 成 比					備 考
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
①加入者回線	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	
②下記以外	98.43%	98.34%	98.29%	98.22%	98.15%	Ⅲ. 需要の右欄 - 左欄
③フレキシブルファイバ	1.57%	1.66%	1.71%	1.78%	1.85%	①-②

(別添2)

光信号端末回線伝送機能予測原価総括表

1. 料金単位 光信号端末回線伝送機能(主配線盤)

2. 原価算定期間 2020年4月～2022年3月(3年)とする

3. 算定方法 料金算定期間における自己資本利益率は5.56%とした。(再)フレキシブルファイバ除きは左欄に(参考2)の②を乗じて算定

(単位:百万円)

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの				
						2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1. 設備管理運営費	1,793	1,610	1,593	1,517	1,429	1,765	1,583	1,566	1,490	1,403
2. 他人資本費用	17	17	16	15	15	17	16	16	15	14
3. 自己資本費用	239	231	221	212	202	235	227	218	208	198
4. 利益対応税	102	99	94	91	86	100	97	93	89	85
5. 原価(1+2+3+4)	2,151	1,957	1,924	1,835	1,732	2,117	1,923	1,893	1,802	1,700
レートベース	7,727	7,465	7,159	6,844	6,535	7,606	7,340	7,037	6,722	6,414
有利子負債以外の負債の額	1,170	1,130	1,084	1,036	989	1,152	1,111	1,065	1,018	971
芯線数(千芯)	3,182	3,250	3,384	3,531	3,672	3,132	3,196	3,326	3,468	3,604
料金(円/芯・月)	56	50	47	43	39	56	50	47	43	39

I. 設備管理運営費 < 光信号端末回線伝送機能(主配線盤) >

1. 個別影響考慮前の設備管理運営費の算定

(単位: 百万円)

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
営業費	0	0	0	0	0
施設保全費	290	281	275	269	263
共通費	146	141	138	135	132
管理費	98	95	93	91	89
試験研究費	126	90	78	63	52
通信設備使用料	2	2	2	2	2
租税公課	118	114	109	104	99
減価償却費	968	844	856	812	752
固定資産除却費	45	43	42	41	40
(再)除却損	11	10	10	10	10
合計	1,793	1,610	1,593	1,517	1,429

算定方法
-
前年度値 × 取得固定資産伸び率
前年度値 × 前年度取得固定資産伸び率
前年度値 × 取得固定資産伸び率
前年度値 × 正味固定資産伸び率
FTMは個別に算定。その他は前年度値 × 設備別正味固定資産伸び率
FTMは個別に算定。その他は前年度値 × 設備別正味固定資産伸び率
FTMは個別に算定。その他は前年度値 × 設備別正味固定資産伸び率

II. 固定資産 < 光信号端末回線伝送機能(主配線盤) >

1. 個別影響考慮前の固定資産価額の算定

(単位:百万円)

区分		2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	算定方法
機械設備	FTM	32,581	32,610	32,905	33,160	33,373	前年度値+当年度取得固定資産-除却額
	正味固定資産	2,831	2,592	2,274	1,930	1,595	前年度値+当年度取得固定資産-減価償却費(当年度取得資産分は半稼動)-除却損
	その他	1,221	1,217	1,222	1,231	1,239	前年度値×契約者数変動率
	正味固定資産	87	87	87	88	89	前年度値×契約者数変動率
土木	取得固定資産	0	0	0	0	0	前年度値×契約者数変動率
	正味固定資産	0	0	0	0	0	前年度値×契約者数変動率
建物	取得固定資産	13,059	13,019	13,068	13,160	13,245	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
	正味固定資産	2,891	2,882	2,893	2,913	2,932	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
構築物	取得固定資産	1,109	1,106	1,110	1,118	1,125	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
	正味固定資産	142	142	143	144	145	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
無形固定資産	取得固定資産	315	314	315	317	319	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
	正味固定資産	85	85	85	86	87	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
その他	取得固定資産	1,775	1,770	1,777	1,789	1,801	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
	正味固定資産	1,542	1,537	1,543	1,554	1,564	前年度値×取得固定資産伸び率にFTMの変動率を加味
合計	取得固定資産	50,060	50,036	50,397	50,775	51,102	
	正味固定資産	7,578	7,325	7,025	6,715	6,412	

Ⅲ. 需要 <光信号端末回線伝送機能(主配線盤)>

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの (単位:千芯)				
						2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
光サービスク線数	3,182	3,250	3,384	3,531	3,672	3,132	3,196	3,326	3,468	3,604
フレッツ光(光コラボレーションモデルを含む)	2,405	2,392	2,425	2,476	2,522	2,405	2,392	2,425	2,476	2,522
ダークファイバ	653	728	830	926	1,019	603	674	772	863	951
シングルスター	463	488	523	561	605	413	434	465	498	537
シェアアクセス	190	240	307	365	414	190	240	307	365	414
専用線等	124	130	129	129	131	124	130	129	129	131

- ・フレッツ光については、下表の契約数に基づき、
ファミリータイプ：8ユーザまでごとに1芯を使用
マンションタイプ：ミニ…1棟(最大8ユーザ)あたり1芯を使用
ミニ以外…光配線方式は32ユーザ、VDSL方式は16ユーザまでごとに1芯を使用
- ・ビジネスタイプ：1ユーザで1芯を使用
- ・ダークファイバについては、
シングルスター方式：直近3年間(2016～2018年度)の平均純増数および5G基地局回線申込計画等を加味して算定
シェアアクセス方式：直近3年間(2016～2018年度)の平均純増数および2019年度の各事業者の申込計画を加味して算定
- ・専用線等については、直近2年間(2017～2018年度)の平均純増率等を基に算定

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(単位:万契約)	
						2020年度	2022年度
フレッツ光年度末契約数(光コラボレーションモデルを含む)	920	940	960	980	1,000		
純増数	16	20	20	20	20		

(参考2) 主配線盤の算定に用いる2018年度から2022年度までの稼働芯線数の内訳

(単位:千芯)

区分	構成比					備考
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
①主配線盤	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	
②下記以外	98.43%	98.34%	98.29%	98.22%	98.15%	Ⅲ. 需要の右欄 - 左欄
③フレキシブルファイバ	1.57%	1.66%	1.71%	1.78%	1.85%	①-②

(別添3)

光信号主端末回線伝送機能予測原価総括表

1. 料金単位 光信号主端末回線伝送機能(加入者回線)

2. 原価算定期間 2020年4月～2022年3月(3年)とする

3. 算定方法 料金算定期間における自己資本利益率は5.56%とし、2019年度における光ファイバの耐用年数の見直し(架空ケーブル:15年→20年、地下ケーブル:21年→28年)等の影響を織り込んだ(再)フレキシブルファイバを除きは左欄に(参考2)の②を乗じて算定

(単位:百万円)

区分	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの				
						2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1. 設備管理運営費	43,993	27,925	24,510	22,246	19,770	43,302	27,461	24,091	21,850	19,404
2. 他人資本費用	1,908	1,979	2,070	2,151	2,223	1,878	1,946	2,035	2,112	2,182
3. 自己資本費用	26,574	27,557	28,826	29,948	30,953	26,157	27,100	28,333	29,415	30,380
4. 利益対応税	11,370	11,790	12,321	12,801	13,231	11,191	11,595	12,111	12,573	12,986
5. 原価(1+2+3+4)	83,845	69,251	67,727	67,146	66,177	82,528	68,102	66,570	65,950	64,952
レートベース	859,635	891,432	932,465	968,774	1,001,269	846,139	876,634	916,520	951,529	982,746
有利子負債以外の負債の額	130,152	134,966	141,179	146,676	151,596	128,109	132,726	138,765	144,065	148,792
6. 加算料相当コスト	5,053	4,191	4,287	4,476	4,614	4,973	4,121	4,213	4,396	4,528
7. 加算料相当コスト控除後原価	78,792	65,060	63,440	62,670	61,563	77,555	63,981	62,357	61,554	60,424
芯線数(千芯)	3,181	3,248	3,383	3,530	3,671	3,131	3,194	3,325	3,467	3,603
料金(円/芯・月)	2,064	1,669	1,563	1,480	1,398	2,064	1,669	1,563	1,480	1,398

(参考1)

加算料相当コストの算定

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの				(単位:千芯)
						2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	
①負担金なしサービス	3,166	3,234	3,370	3,519	3,662	3,116	3,180	3,312	3,456	3,594
②専用線等	108	114	115	118	121	108	114	115	118	121
③フレッツ光	2,405	2,392	2,425	2,475	2,522	2,405	2,392	2,425	2,475	2,522
④ダークファイバ(他事業者利用分)	653	728	830	926	1,019	603	674	772	863	951
⑤負担金ありサービス	15	14	13	11	9	15	14	13	11	9
⑥計	3,181	3,248	3,383	3,530	3,671	3,131	3,194	3,325	3,467	3,603

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(単位:百万円)

I. 設備管理運営費 <光信号主端末回線伝送機能(加入者回線)>

1. 個別影響考慮前の設備管理運営費の算定

(単位:百万円)

区分	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	算定方法
営業費	0	0	0	0	0	-
施設保全費	14,406	9,383	8,060	7,150	6,197	<故障修理・工事施工> 前年度値×取得固定資産伸び率 <電柱・土木> 前年度値×契約者数変動率の伸び率 <故障受付・ソフトウェア> 前年度値×取得固定資産伸び率 <上記以外> 前年度値×上記支出額変動率の伸び率
共通費	1,101	716	615	547	475	前年度値×施設保全費変動率の伸び率
管理費	1,601	1,044	898	797	692	前年度値×施設保全費変動率の伸び率
試験研究費	1,737	1,346	1,132	997	853	前年度値×当年度取得固定資産伸び率
通信設備使用料	5	3	3	2	2	前年度値×取得固定資産伸び率
租税公課	7,341	5,389	4,792	4,393	3,939	前年度値×正味固定資産伸び率
減価償却費	15,668	8,593	7,742	7,219	6,608	光ケーブルは個別に算定。その他は前年度値×設備別正味固定資産伸び率
固定資産除却費	2,134	1,451	1,268	1,141	1,004	光ケーブルは個別に算定。その他は前年度値×設備別正味固定資産伸び率
(再)除却損	473	353	310	280	248	光ケーブルは個別に算定。その他は前年度値×設備別正味固定資産伸び率
合計	43,993	27,925	24,510	22,246	19,770	

Ⅱ. 固定資産 <光信号主端回線伝送機能(加入者回線)>

1. 個別影響考慮前の固定資産価額の算定

(単位:百万円)

		2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	算定方法
線路設備	光ケーブル	1,493,880	1,529,786	1,577,087	1,624,074	1,670,198	前年度値+当年度取得固定資産-除却額
		404,231	417,460	439,215	456,521	470,533	前年度値+当年度取得固定資産-減価償却費(当年度取得資産分は半稼動)-除却損
	電柱	416,368	435,991	455,470	474,608	493,280	前年度値×契約者数変動率
		197,959	207,289	216,550	225,649	234,526	前年度値×契約者数変動率
土木	取得固定資産	28,005	28,371	28,798	29,211	29,602	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
	正味固定資産	5,539	5,612	5,697	5,779	5,856	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
建物	取得固定資産	1,115,777	1,168,363	1,220,561	1,271,845	1,321,881	前年度値×契約者数変動率
	正味固定資産	198,446	207,799	217,083	226,204	235,103	前年度値×契約者数変動率
構築物	取得固定資産	53,471	54,154	54,957	55,738	56,477	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
	正味固定資産	12,054	12,208	12,389	12,564	12,730	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
無形固定資産	取得固定資産	4,663	4,722	4,792	4,860	4,924	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
	正味固定資産	599	607	616	625	633	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
その他	取得固定資産	39,807	39,847	40,111	40,468	40,801	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
	正味固定資産	10,089	10,100	10,168	10,259	10,344	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
合計	取得固定資産	21,267	21,510	21,809	22,106	22,387	前年度値×取得固定資産伸び率に光ケーブルの変動率を加味
	正味固定資産	3,184,039	3,293,682	3,414,684	3,534,166	3,650,954	
		850,186	882,585	923,527	959,707	992,112	

Ⅲ. 需要 < 光信号主端末回線伝送機能(加入者回線) >

(単位:千芯)

	2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(再)フレキシブルファイバを除いたもの				
						2018年度 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
光サービスク線数	3,181	3,248	3,383	3,530	3,671	3,131	3,194	3,325	3,467	3,603
フレッツ光(光コラボレーションモデルを含む)	2,405	2,392	2,425	2,476	2,522	2,405	2,392	2,425	2,476	2,522
ダークファイバ	653	728	830	926	1,019	603	674	772	863	951
シングルスター	463	488	523	561	605	413	434	465	498	537
シェアアクセス	190	240	307	365	414	190	240	307	365	414
専用線等	123	128	128	128	130	123	128	128	128	130

・フレッツ光(光コラボレーションモデルを含む)については、下表の契約数に基づき、

ファミリータイプ：8ユーザまでごとに1芯を使用

マンションタイプ：ミニ・・・1種(最大8ユーザ)あたり1芯を使用

ミニ以外・・・光配線方式は32ユーザ、VDSL方式は16ユーザまでごとに1芯を使用

ビジネスタイプ：1ユーザで1芯を使用

・ダークファイバについては、

シングルスター方式：直近3年間(2016～2018年度)の平均純増数および5G基地局回線申込計画等を加味して算定

シェアアクセス方式：直近3年間(2016～2018年度)の平均純増数および2019年度の各事業者の申込計画を加味して算定

・専用線等については、直近2年間(2017～2018年度)の平均純増率等を基に算定

(単位:万契約)

	2018年度実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
純増数	16	20	20	20	20

(参考2) 加入者回線の算定に用いる2018年度から2022年度までの稼働芯線数の内訳

(単位:千芯)

区分	構成比					備考
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
①加入者回線	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	
②下記以外	98.43%	98.34%	98.29%	98.22%	98.15%	別添3 光信号主端末回線伝送機能予測原価総括表 芯線数(千芯)の右欄÷左欄
③フレキシブルファイバ	1.57%	1.66%	1.71%	1.78%	1.85%	①-②